

タイトル	スロバキアのホロコースト（1938 年～1945 年）...エドゥアルド・ニジニャンスキー（著）
著者	木村，和範；KIMURA, Kazunori
引用	北海学園大学学園論集(189・190)：99-132
発行日	2023-03-27

スロバキアのホロコースト（1938 年～1945 年）

エドゥアルド・ニジニャンスキー（著）*

木 村 和 範（訳）**

はじめに

1. 反ユダヤ主義の政治とホロコースト（1939 年～1945 年）
 2. アーリア化（1940 年～1941 年）
 3. 強制移送（1942 年）
 4. 「平和な時代」（1943 年～1944 年）
 5. スロバキア国民蜂起とユダヤ人（1944 年）
 6. ホロコースト研究の意義 — 結びにかえて —
- 付録 ホロコースト略年表（スロバキア関係分）

文献目録

はじめに

チェコスロバキアの受け止めによれば、
ミュンヘン協定（1938 年）⁽¹⁾ は、ナチス・ド

イツの領土要求を飲んだ列強が独断的に取り
決めた協定である。締結国の中にファシス
ト・イタリアが入っているのは当然だとして
も、チェコスロバキア共和国は、民主主義国
家であるフランスとイギリスから支援される
ことなく、ナチス・ドイツの地政学的支配の
手中に落ちることになった⁽²⁾。

* 原執筆者は Prof. Dr. Eduard Nižňanský, CSc.
(Department of General History, Faculty of Arts,
Comenius University Bratislava, Slovakia) である。
ここに訳出する論文の原題は, “The Holocaust in
Slovakia (1938-1945)” であり, 訳者の依頼によ
り新たに書き下ろされた。本文と脚注における
[] 内は訳者による。翻訳の掲載については著
者の許諾を得た。

** 本学名誉教授

(1) ミュンヘン協定は, 1938 年 9 月 30 日にミュ
ンヘンでドイツ, イギリス, フランス, イタリア
によって締結された。これによりチェコスロ
バキアの「ズデーテン地方のドイツへの割譲」
が決まった。

(2) 以下を参照。Gottlieb, Julie et al. (eds.), *The
Munich Crisis, Politics and the People: International, Transnational and Comparative Perspectives*, Manchester University Press, 2021;
Lukes, Igor and Erik Goldstein (eds.), *The Munich
Crisis, 1938: Prelude to World War II*, London:
Portland 1999; Smetana, Vit, “Ten Propositions
about Munich 1938. On the Fateful Event of Czech
and European History - without Legends and
National Stereotypes,” in: *Czech Journal of*

チェコスロバキア共和国(1918年～1938年)[オーストリア・ハンガリー帝国崩壊による独立からミュンヘン協定まで]の下で、ユダヤ人は一般市民と同様に行動することができ、多様な民主主義の可能性を享受していた。

ミュンヘン協定が与えた内政への影響には驚くべきものがあった。チェコスロバキアの民主主義は手痛い打撃を受けたのである。ボヘミア地方ではただちに議会制民主主義が制限され、国民統一党(*Strana národní jednoty*) (旧農業党と複数の市民政党的連合組織)と国民労働党(*Národní strana práce*) (旧社会民主党とチェコスロバキア国家社会主義党的連合組織)による二大政党制が導入された。ただし、この制度が存続したのは、ナチス・ドイツによってボヘミア・モラヴィア保護領が作られた1939年3月までである。

スロバキアでは、カトリックの独裁的で民族主義的なフリンカ・スロバキア人民党⁽³⁾が

この状況を利用し、1938年10月6日にジリナで「スロバキアの自治」を宣言した。その後、フリンカ・スロバキア人民党はチェコスロバキア共和国の民主的基盤を徐々に切り崩していった。フリンカ・スロバキア人民党は、もっと早くから民主主義を切り崩すと息巻いてはいたが、その実現はチェコスロバキアの民主主義体制によって妨げられていた。政治を主導し、1938年10月から自治政府の首相となったヨゼフ・ティソ⁽⁴⁾は、1936年フリン

こと、これらが原因となって、同党は、民主主義に不信感を抱くようになり、ファシズムのような、さらに過激で極端なイデオロギーに傾斜するようになった。しかし、民主的なチェコスロバキア共和国の議会選挙で、フリンカ・スロバキア人民党が三分の一以上の得票を得ることはなかった。スロバキア自治政府の時期に、一党独裁体制が創られた(1938年10月6日～1939年3月14日)。フリンカ・スロバキア人民党はスロバキア共和国時代に全権力を掌握した国家政党になったが、その地位に堪える法的根拠は、「スロバキア国民はフリンカ・スロバキア人民党(スロバキア民族統一党)を通じて国家権力に参加するものとする。」という憲法第58条(1939年法律185号)である。第二次世界大戦後、同党の活動が禁止された。[脚注7, 24参照。]

Contemporary History Vd. 7, No. 7, 2019, pp. 5-14; Werstein, Irving, *Betrayal: the Munich Pact of 1938*, New York: Garden City, 1969.

- (3) フリンカ・スロバキア人民党(スロバキア語では *Hlinkova slovenská ľudová strana*, 略称は *HSLS*)。1913年にカトリック司祭アンドレイ・フリンカ(*Andrej Hlinka*)が設立したスロバキア人民党(*Slovenská ľudová strana, SLS*)を前身とする。同党は、強固なカトリック原理主義、ナショナリズム、独裁主義を標榜する極右聖職者によって結成されたファシスト政党であり、反社会主義、反共産主義、反リベリズムの政党でもある。1918年にチェコスロバキア共和国が成立すると、フリンカ・スロバキア人民党は、保守的なイデオロギーを堅持して、チェコスロバキア一国主義に反対する一方で、「スロバキアの自治」を要求した。1930年代後半、ヨーロッパで全体主義体制が台頭したこと、およびフリンカ・スロバキア人民党が長期的な政治目標を達成できなかった

- (4) ヨゼフ・ティソ(*Jozef Tiso*) (1887年～1947年)。ナチス・ドイツの協力者、カトリック司祭、スロバキア自治政府の首相(1938年10月6日～1939年3月14日)。スロバキア共和国の成立後は、スロバキア共和国初代首相(1939年)、スロバキア共和国大統領(1939年～1945年)、政権党フリンカ・スロバキア人民党議長(1939年～1945年)、保守派の代表を務め、フリンカ警護団(フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織)の総司令官に就任。1942年以降は「総統」(スロバキア語では *Vodca*)。第2次世界大戦後に処刑。以下を参照。Kamenec, Ivan, *Jozef Tiso: Tragédia politika, kňaza a človeka* [*Jozef Tiso: The Tragedy of a Politician, Priest and Man*], Bratislava, 2013; Nižňanský, Eduard, “Die Vorstellungen Jozef Tiso über Religion, Volk und Staat und ihre Folgen für seine

カ・スロバキア人民党第7回ピエシュタニ大会で宣言したスローガン（「一つの民族、一つの政党、一人の指導者が国家のために団結して前進する。」）の中で、すでに党綱領の輪郭を示していた⁽⁵⁾。

自治政府の時代に（1938年10月6日～1939年3月14日）、ヨゼフ・ティソとフリンカ・スロバキア人民党は（国家政党としてのフリンカ・スロバキア人民党による）一党制を速やかに敷くとともに、スロバキアの、国としての政治、文化、思想の発展についてただ一つの観念を押しつけた。この時代に議会制民主主義が廃止され、下に述べるような広範に渡る数多くの反民主主義的措置が執られて、スロバキア国民に影響を与えることになった。

A) フリンカ・スロバキア人民党以外のすべての政党活動の禁止。これはユダヤ人政党（ユダヤ党（1938年11月24日付）

とスロバキア社会主義シオニスト労働者統一党（1938年11月25日付））にも適用され、2党は1939年1月23日に解党した。

B) スポーツ団体の禁止。ユダヤ人のスポーツクラブ（マカビ）を含む。

C) 自治団体（県レベルの団体）への介入。地方議会や市議会、郡レベルの行政への介入、ならびに当局による政府委員（ユダヤ人の代表を含む）の任命への介入。

D) スロバキア県議会の選挙（1938年12月18日）におけるユダヤ人とチェコ人の立候補禁止。被選挙人名簿を提出できるのは、フリンカ・スロバキア人民党のみ。スロバキアのほとんどの選挙区では、スロバキア人、チェコ人、ドイツ人、ハンガリー人、ユダヤ人ごとに投票所を設置。

その一方で、フリンカ・スロバキア人民党は、明確で具体的な反ユダヤ法が何ら成立していないときから、スロバキアのユダヤ人コミュニティを標的として狙うようになった⁽⁶⁾。ユダヤ人コミュニティは、マイノリ

Politik während des Zweiten Weltkriegs,” in: Kaiserová, Kristina et al. (eds.), *Religion und Nation: Tschenen, Deutsche und Slowaken im 20. Jahrhundert*, Essen: Klartext Verl., 2015, pp. 39–83; Nižňanský, Eduard, “Anti-Semitic Policies of Jozef Tiso during the War and before the National Court,” in: Mičev, Stanislav et al. (eds.), *Policy of Anti-Semitism and Holocaust in Post-War Retribution Trials in European States*, Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2019, pp. 113–148; Ward, James Mace, *Priest, Politician, Collaborator: Jozef Tiso and the Making of Fascist Slovakia*, Ithaca and London: Cornell University Press, 2013.

(5) 以下を参照。Nižňanský, Eduard, “Die Machtübernahme von Hlinka Slowakischer Volkspartei in der Slowakei im Jahre 1938/39 mit einem Vergleich zur nationalsozialistischen Machtübergreifung 1933/34 in Deutschland,” in: Glettler, Monika et al. (eds.), *Geteilt, besetzt, beherrscht*, Essen: Klartext Verl., 2004, pp. 249–287.

(6) 1930年スロバキア人口センサスによると、ユダヤ教徒として登録された市民は13万6737人（全人口の4.11%）である。その国籍は多様で、チェコ人とスロバキア人（統計ではチェコスロバキア人）4万4019人（32.19%）、ドイツ人9945人（7.27%）、ユダヤ人6万5385人（47.81%）であった。1938年12月31日の人口センサスによれば、スロバキアの人口は270万9000人である。2万9928人（1.11%）がユダヤ人と申告し、8万7487人（3.23%）がユダヤ教を信仰していると回答した。宗派で見ると70%が正統派に属していた。最大のユダヤ人コミュニティがあったのは、ブラチスラバ（約1万5000人）であり、以下ニトラ

ティの代表的存在であったために、スロバキアにおける議会制民主主義の廃止を観察するときには、理想的な指標と言えよう。

自治政府時代のユダヤ人コミュニティにたいする介入、具体的には次のとおりである。

A) 「エルヴの囲い」の禁止 (1938年10月22日に地方庁が可決)。これは、ユダヤ人コミュニティの精神世界 (休日や土曜日の様々な宗教行事) を侵害した。[「エルヴの囲い」とは、安息日に物品の移動を可能とする領域を定める囲いの謂。]

B) 経済的措置は以下のとおり。a) 1938年11月29日付の政令による日曜日の営業禁止 (ユダヤ人には土曜日が祝日に当たるため、週2日は店を開けることができなくなった)、b) 営業免許の査察と単独取引への干渉 (これにより商業会議所は、管理のあり方を変更せざるを得なくなった)。

C) ユダヤ人公証人、ユダヤ人裁判官、ユダヤ人教員などによる職業活動への介入。

D) フリンカ警護団⁽⁷⁾ によるユダヤ人コミュニティのメンバー、ユダヤ人の住居、シナゴークへの襲撃 (最多の襲撃を受けた都市は、トルナヴァとピエシュタニ)。

E) 反ユダヤ的法律の整備。このとき、反ユダヤ主義が巧みに活用された。1939年1月23日、スロバキア自治政府は「ユダヤ人問題解決委員会」を設置した。同

(7) フリンカ警護団 (スロバキア語では Hlinkova garda) (1939年～1945年)。フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織。フリンカ警護団の作戦対象は、ユダヤ人、チェコ人、左派、反対勢力。1938年10月29日付の政令によって、フリンカ警護団は、準軍事訓練ができる唯一の組織として公認され、この政令によって国内での正式な地位が確立した。フリンカ兵は、黒い制服を着て、てっぺんに毛糸でできた玉房の飾りを付けた船形の帽子を被り、敬礼では右腕を上げた。正式な敬礼のときは「警戒せよ」(スロバキア語では Na stráž!) と発した。スロバキアが独立を宣言する1939年3月14日までに、フリンカ警護団はあらゆる職業層から新兵を集めた。翌3月15日、アレクサンデル・マツハが総司令官に就任し、1945年にスロバキアの親ナチス政権が崩壊するまで、その任に当たった。

同党の権限は一連の政令で定められ、党に付属する準軍事組織として、愛国心を涵養し、準軍事訓練を行い、国内の治安を維持することを任務とした。これらの任務の遂行を通じて、フリンカ警護団は軍や警察に対抗しようとした。1938年11月、フリンカ警護団は、スロバキアから数千人のユダヤ人を強制移送するほか、1942年に、占領下のポーランドへほぼ5万8000人のユダヤ人を移送したときにも関与した。犠牲者への通告は、移送のわずか4時間前であり、それは逃亡させないようにするためであった。ユダヤ人にたいする殴打や頭髪の強制的な刈上げは日常茶飯事で、貴重品を探し出すために急襲することもあった。フリンカ兵の中には、権力を笠に着て、ユダヤ人女性をレイプする者もいた。フリンカ警護団の活動が禁止されたのは、第二次世界大戦後である。

(4358人)、プレシヨフ(4308人)、ミハロフツェ(3955人)、ジリナ(2917人)、トポチャニ(2459人)、トルナヴァ(2445人)、バルデヨフ(2441人)が続く。次を参照。Büchler, R. Y., "Jewish Community in Slovakia before the World War II," in: *Tragedy of the Slovak Jewry*, Banská Bystrica, 1992, pp. 5-26; Hradská, Katarína, "The Status of Jews in Slovakia under the 1st Czechoslovak Republic," in: *Emancipation of Jews - Anti-Semitism - Persecution in Germany, Austria-Hungary, in Czech Countries and in Slovakia*. Bratislava, 1999, pp. 131-38; Rothkirchen, Livia, "The Situation of Jews in Slovakia between 1939 and 1945," in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Vol. 7, 1998, pp. 46-70.

委員会を構成したのは、大臣カロール・シドル⁽⁸⁾、フェルディナンド・ドゥルチャンスキー⁽⁹⁾、ミクラーシュ・プルジンスキー⁽¹⁰⁾、パヴォル・テプランスキー⁽¹¹⁾、弁護士ヨゼフ・ヴィルシークである。スロバキアは 1939 年 3 月に成立したばかりの国だったため、反ユダヤ主義的な法律を採択する時間はなかったはずだが、「委員会」が機能したことによって、国家樹立後、反ユダヤ主義的な法律の迅速な採択が可能になった⁽¹²⁾。

F) 1938 年 11 月のユダヤ人強制移送。スロバキアのユダヤ人コミュニティにたいする最初の大規模な暴力的な干渉は、「スロバキアの自治」(1938 年 10 月 6 日)を宣言した直後に起こった。1938 年 11 月 2 日に、ヨゼフ・ティソと自治政府は、外交上初めての政治的敗北を喫した。第一次ウィーン裁定によって、スロバキアはその領土の多くをハンガリーに割譲させられたからである⁽¹³⁾。領土を喪失したことは、フリンカ・スロバキア人民党にとってとても深刻な痛手となった。このとき、責任を取らせる生贄^{いけにえ}が必要であった。それがユダヤ人であった。プロパガンダではユダヤ人は「外国から来た非スロバキア人にして敵性分子」と描かれたのである。外国人嫌いのフリンカ・スロバキア人民党の指導者は自分たちが「犠牲にさせられた」と信じ込み、それが憎悪を生みだし、極端に非人間的な「解決策」となって顕現した。ユダヤ人はスロバキアのマイノリティの中で唯一、何

-
- (8) カロール・シドル (Karol Sidor) (1901 年～1953 年)。フリンカ・スロバキア人民党の政治家、バチカン代表部駐在 (1939 年～1945 年)、第二次世界大戦後亡命。
- (9) フェルディナンド・ドゥルチャンスキー (Ferdinand Ďurčanský) (1906 年～1974 年)。フリンカ・スロバキア人民党の政治家、反ユダヤ主義者、親独急進派、ナチス・ドイツの協力者、スロバキア共和国樹立後外務大臣および内務大臣、1939 年 3 月、スロバキアをナチス・ドイツの衛星国とした「ナチス・ドイツとの防衛条約」の署名人。フリンカ・スロバキア人民党における国内政争とナチスの圧力により下野。第二次世界大戦後亡命。
- (10) ミクラーシュ・プルジンスキー (Mikuláš Pružinský) (1886 年～1953 年)。フリンカ・スロバキア人民党の政治家。財務大臣 (1939 年～1945 年)、ナチス・ドイツの協力者、第二次世界大戦後、国民法廷で禁固 6 年。
- (11) パヴル・テプランスキー (Pavol Teplanský) (1886 年～1969 年)。農業党の政治家、地主。自治政府時代 (1938 年 10 月 6 日～1939 年 3 月 14 日)、フリンカ・スロバキア人民党の政治家に協力し、みずからも自治政府の大臣を務めた。スロバキア政府樹立後 (1939 年 3 月 14 日)、政界を引退。
- (12) Nižňanský, Eduard, *Židovská komunita na Slovensku medzi československou parlamentnou demokraciou a slovenským štátom v stredoeurópskom kontexte*, [The Jewish Community in Slovakia between the Czechoslovak Parliamentary Democracy and the Slovak State in the Central

European Context.] Prešov: Universum, 1999 を参照。

- (13) 第一次ウィーン裁定により、スロバキアは 1 万 423 km² の領土と 85 万 9885 人の住民を失った (内訳、スロバキア人 27 万 6287 人、ハンガリー人 50 万 5808 人、ユダヤ人 2 万 6181 人、ドイツ人 8967 人、ルシーン人 1829 人)。たとえば、Hoensch, J. K., *Der ungarische Revisionismus und die Zerschlagung der Tschechoslowake*, Tübingen 1967, pp. 189 参照。なお、ルシーン人 (Rusyn, Русины) とは、スロバキア東部を含む中欧の東カルパト地方出身の東スラブ民族であり、カルパチア・ルシーン人 (Carpatho-Rusyn)、ルスナク人 (Rusnak) とも言われる。

の保護も受けられない存在となり、スロバキア自治政府が堂々と対峙する「他者」になったのである。他方で、[マイノリティであった] ハンガリー人やドイツ人にたいしては、そのような攻撃は、まったく考えられさえすることがなかった。自治政府の首相であり内務大臣でもあったヨゼフ・ティソは、その権限によって、ユダヤ人の一部をスロバキアからハンガリーに割譲された地域へと強制移送するよう命じた。こうして（証拠を挙げることができるが）7500人のユダヤ人が強制移送されることになった（これはスロバキアに居住する全ユダヤ人の8%に当たる）。第一次ウィーン裁定によると、ハンガリー軍は、1938年11月5日には、割譲された領土を占領することになっており、他方、スロバキアは11月10日までに当該領土を割譲する手はずになっていた。ところが、土壇場になって、ハンガリーが占領する前日（11月4日）、スロバキアの地方当局に次のような電報が送られた。

首相ティソ博士閣下の命により、以下のとおり布告する……。すべての郡、警察管区の関係各位、ならびにスロバキア南部のフリンカ警護団の主要部隊は、内務省令に基づき、遅くとも1938年11月4日の午後12時まで、当該地域の全ユダヤ人住民を検束し、物資を持たせずに家族ともども、1938年11月4日の真夜中までに新しい国境の外へ追放す

べくトラックによる大量輸送を行う旨、通知する。⁽¹⁴⁾

ティソは政治責任を果たすべく、貧困にあえぐユダヤ人をスロバキアから強制移送すること（「破裂」と言う。）を命じた。だが、11月7日、ティソは移送停止の命令を発出した。そうすると、ほとんどのユダヤ人がスロバキアに戻ってきた。当時のフリンカ・スロバキア人民党のエリート層から見てさえも、ユダヤ人の一部をハンガリーに割譲した領土に強制移送するという構想は、反民主的であるとか、非人道的であるということだけでなく、論理的にも疑問視されるものであった。ハンガリーが、どうして強制移送されたユダヤ人を自国の土地に受け入れることに同意しなければならないのか、というわけである。結局、ウィーンでの勝者はハンガリーであった。もちろん、ハンガリー側は、強制移送者を受け入れることはしなかったが、1938年11月～12月には、「^{ノーマンズ・ランド}中間地帯」（スロバキア国境とハンガリー国境間の約1.5²⁴⁴）に最初の収容所が（ミロスラヴォフとヴェルクー・クールに）設置された。11月の強制移送にたいする政治責任は、

(14) Nižňanský, Eduard, *Židovská komunita na Slovensku medzi československou parlamentnou demokraciou a slovenským štátom v stredoeurópskom kontexte*, [The Jewish Community in Slovakia between the Czechoslovak Parliamentary Democracy and the Slovak States in the Central European Context,] Prešov: Universum, 1999, pp. 243-251.

ティソにあった⁽¹⁵⁾。ところが、強制移送という言葉が口に出された当時は、チェコスロバキア憲法がまだ有効であったために、この言葉は憲法の中でも謳っておく必要があった。ティソもスロバキア政府も、自治政府時代から多くの行為の違法性を認識していたために、1940年6月5日に「その是正を目的に」一切の行為を遡及して合法とする憲法（1940年法律第145号）が可決された⁽¹⁶⁾。

1. 反ユダヤ主義の政治とホロコースト（1939年～1945年）

1939年3月、ナチス・ドイツは中欧における地政学的優位性を維持する観点から、チェコスロバキア第2共和制に介入することに決めた。ボヘミアとモラビアの占領とボヘミア・モラビア保護領の設置、そしてスロバキアの建国はその結果である⁽¹⁷⁾。

このときのスロバキアという国の基盤が、以後のあり方を丸ごと規定することになった。スロバキア共和国はナチス・ドイツと「防

衛条約」を締結し、ナチス・ドイツの衛星国となり、ドイツ軍はスロバキア領土に駐留し、これによってスロバキア共和国はナチス・ドイツと外交政策ならびに軍事政策を調整することになった⁽¹⁸⁾。

1939年から1945年までのスロバキアの反ユダヤ政策の基礎となったのは、1938年のミュンヘン協定以降に権力を掌握したフリンカ・スロバキア人民党の反ユダヤ政策である。

初期の反ユダヤ主義は、ユダヤ人が半神半人神話を信じているとか、イエスを救世主とは認めないなどというようなキリスト教レベルから生まれている。スロバキアはキリスト教国であったために⁽¹⁹⁾、キリスト教的なこのような紋切り型の反ユダヤ主義がフリンカ・スロバキア人民党の政治家たちに使用され、それが国民に多大な影響を与えた。

反ユダヤ主義には、民族的・経済的・政治的という3つの類型があった。民族的で言語にかんするタイプの反ユダヤ主義は、「ユダヤ人はスロバキア人ではない」（ユダヤ人は、ハンガリー語、ドイツ語、イデッシュ語を話

(15) Nižňanský, Eduard, “Die Deportation der Juden in der Zeit der autonomen Slowakei im November 1938,” in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung* 7, Frankfurt/Main: Campus, 1998, pp. 20–45; Nižňanský, Eduard, “Die jüdische Gemeinde in der Slowakei 1938/39,” in: *Jahrbuch 2000*, Wien: DÖW, 2000, pp. 116–133.

(16) *Úradné noviny* 1940, (Official Newspapers 1940,) pp. 226–7.

(17) 1939年7月21日に採択された憲法によれば、この国の公式名称は「スロバキア共和国」であり、すべての公文書にはこの名称が使用されている。ただし、スロバキアの政治家や印刷文書は「スロバキア」を国名として使っている。

(18) Nižňanský, Eduard et al. (eds.), *Slowakisch-deutsche Beziehungen 1938–1941 in Dokumenten I. Von München bis zum Krieg gegen die UdSSR*, Prešov: Universum, 2009, pp. 304–309. (Vertrag über das Schutzverhältnis zwischen dem Deutschen Reich und dem Slowakischen Staat - 18. März, Wien, 23. März, Berlin).

(19) アントン・シュテファークによれば、1940年のスロバキアの宗教構成は次のとおりである。カトリック 195万6233人（73.64%）、ギリシャ正教 18万3736人（6.91%）、プロテスタント諸派 40万3073人（15.13%）、その他のプロテスタント 9994人（0.37%）。Štefánek, Anton, *Základy sociografie Slovenska*, [Foundations of the Sociography of Slovakia,] Bratislava, 1944, pp. 179–180.

す) というものであって、ユダヤ人はオーストリア＝ハンガリー帝国の時代にマジャール化〔ハンガリーに同化〕したスロバキア人と言われた。『ニューヨーク・タイムズ』紙は、1938年夏、スロバキアでユダヤ人が難しい立場に置かれているとして、次のように述べている。

スロバキア人は、彼ら（ユダヤ人——ニジニャンスキー）がチェコの中央集権国家を支持していて、しかも親ハンガリー派でありハンガリー語を使っていると非難している。ところが、ハンガリー人は、ユダヤ人こそハンガリーの裏切り者だと非難している。⁽²⁰⁾

経済的（社会的）なタイプの反ユダヤ主義は、ユダヤ人が過去にスロバキア人を搾取したばかりでなく、今も搾取しているという信念によるものであり、ユダヤ人のパブ経営者はスロバキア人からアルコール飲料を作るとも言われた。大統領のティソは1940年9月に次のように述べている。

たとえば、ユダヤ人にたいしてやっていることは、キリスト教的ではないと心配する向きの人もいる。しかし、私はこう言いたい。問題は徹底的に始末されてはじめて、最もキリスト教的なものになるのだ、と。さらにまた、ユダヤ人は、我々が私有財産権を侵害していると非難

の声を挙げている。曰く、我々がユダヤ人のラジオを取り上げ、ユダヤ人の店舗や企業を奪うのは、キリスト教徒にあるまじき振る舞いだ。ところが、私はこう言いたい。我々のしていることは真にキリスト教徒にふさわしい。なぜならば、我々は、ユダヤ人が長い時間を掛けて強奪したものを、奪い返しているだけだからだ。⁽²¹⁾

政治的なタイプの反ユダヤ主義によると、ユダヤ人は「リベラル」で左翼（ユダヤ・ボルシェビキ）の資本家でマルクス主義者と見なされていた。保守的なナショナリストで、宗教家のような考え方をするカトリックのフリンカ・スロバキア人民党から見れば、ユダヤ人はリベラルで左翼的なイデオロギーの代弁者と映った。この点では、フリンカ・スロバキア人民党の主張と実践の根底には、「ユダヤ・ボルシェビズム」という考え方（すべてのユダヤ人が本質的に急進的な共産主義の信奉者であるという考え方）があった。しかし、実際には、スロバキアのユダヤ人は伝統的な中産階級に属し、（ユダヤ系だけでなく）多種多様な政党を支持していた。したがって、このような見解には合理的な根拠がない。ところが大統領のティソは、「スロバキア国民にとっての極悪人」への闘争、「ユダヤ・ボルシェビズム」にたいする闘争を呼びかけたのである⁽²²⁾。

ティソは、ナチス・ドイツへの協力という一

(20) *New York Times*, November 6, 1938.

(21) *Slovák*, September 9, 1940, p. 4.

(22) *Slovák*, June 6, 1939, p. 1.

般的な政治問題とユダヤ人にたいする鬱積^{うっせき}した憤^{いきどお}りとを上手に縫い合わせて、表舞台に登場した。ティソは、スロバキアのナショナリズムを、経済面における反ユダヤ主義の下敷きにすることができた。彼は、長きに亘ってスロバキア国民を「食い物にしてきた」ユダヤ人の悪事を、古典的なありきたりの反ユダヤ主義と結びつけて、「神殺し」というユダヤ人の原罪を「思い起こさせよう」としたのである。1940年9月、ルジヨムベロクという町で開かれた祝賀会で、ティソは次のように述べた。

神はドイツ軍の敗北を許しません、と私が言え、皆さんはきっと納得することでしょう。負けてしまえば、ユダヤ人とその一統がこぞってまた戻ってくるからです。アドルフ・ヒトラーが言ったように、現在の闘いは総力戦であり、金満家⁽²³⁾にたいする戦争でもあり、全地球的なユダヤ資本にたいする戦争であることを認識しなければなりません。彼らが頑強なのはそのせいです。追い払われてもなお帰還の機会を窺い、元の場所に舞い戻ろうとするのです。ユダヤ人がピラトにキリストの死を要求したとき、彼ら自身が発した呪いは成就しました。ピラトはユダヤ人に、『あなたたちの王を^{はりつけ}磔^{おそ}にしようか。』と言いました。すると畏れ多くも、『私たちに王はいません。私たちや私たちの子どもが戴くのは、カエサルただ一人です。』と答えました。彼

らに平安がやってくることはありません。資本主義、すなわちマルクス主義のイデオロギーと縁を切らない限り、ユダヤ人に安らぎが訪れることはないでしょう。皆さんは、わが国家、わが政府が、このような観点から、どのようにして事態に対処すべきかを判断しなければなりません。スロバキアはスロバキア人のものでなければならないと宣言して、私たちは長い間、闘ってきました。スロバキアで育つもの、スロバキアにあるものは、なべてスロバキア人に仕えなければなりません。私たちはスロバキアからチェコ人を駆逐しました。スロバキアの富をユダヤ人に引き渡してしまえば、フリンカ⁽²⁴⁾の精神を裏切ってしまう。ユダヤ人がスロバキア人から略奪したものを、生涯掛けて不退転の決意で誠実に取り戻そうとしても、時間が足りないくらいです。⁽²⁵⁾

スロバキア生まれの（ドイツからの借り物ではない）反ユダヤ主義は、ユダヤ人をスロバキア人とスロバキアという国の敵とする心象と結びつき⁽²⁶⁾、スロバキアにおける反ユダ

(23) 「金満家」という言葉は、イギリスとアメリカを表すとされた。

(24) アンドレイ・フリンカ（Andrej Hlinka）（1864年～1938年）。スロバキアのカトリック司祭で政治家。フリンカ・スロバキア人民党（1913年結党）の最重要メンバーの一人。チェコスロバキアの国会議員。

(25) *Slovák*, October 1, 1940, p. 1.

(26) Nížňanský, Eduard, *Obraz nepriateľa v propagande počas II. svetovej vojny na Slovensku*, [Image of the Enemy in Propaganda during World War II in Slovakia,] Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2016.

や政策の基本的な考え方にもなった⁽²⁷⁾。

フリンカ・スロバキア人民党には、二派があった。「穏健派(ヨゼフ・ティソ)」と急進派(ヴォイテフ・トゥカ⁽²⁸⁾、アレクサンデル・マッハ⁽²⁹⁾)である。1939年1月のティソの次のような発言は「穏健派」のやり方を物語っている。

ユダヤ人問題は、スロバキアのユダヤ人がスロバキアの全人口に比例して、そ

の数に見合うだけの影響しか及ぼさない形で解決されることになるであろう。スロバキア人に教育が施されれば、経済や工業の帳簿類を読み書きできるようになり、それまではユダヤ人が占有していたすべての地位を次第に継承できるようになるであろう。⁽³⁰⁾

「穏健派」が推進した反ユダヤ政策は、社会・経済などの生活領域におけるユダヤ人を4%程度に割り当てるという方式〔人数制限〕

に基づいている。1938年秋の自治権取得から1940年のザルツブルク会議⁽³¹⁾までの期間

(27) スロバキアにおけるホロコーストの年譜と諸局面については、本稿末尾の付録(略年表)ならびに以下を参照。Nižňanský, Eduard, “Der Holocaust in der Slowakei,” in: Ulrich Habermann, Jörg Kayser and Henrich Scheller (eds.), *Unterichtsbeispiele zu den Verbrechen im Nationalsozialismus*, Berlin: Cultus e.v., 2005, pp. 7-17.

(28) ヴォイテフ(・ペーラ)・トゥカ(Vojtech “Béla” Tuka) (1880年~1946年)。フリンカ・スロバキア人民党の政治家。首相(1939年~1940年)、外務大臣(1940年~1944年)、ナチス・ドイツの協力者。ドイツ占領下のポーランドに設置されたナチスの強制収容所にスロバキアのユダヤ人を強制移送したときの黒幕の一人。フリンカ・スロバキア人民党の極右指導者。第二次世界大戦後に処刑。

(29) アレクサンデル・マッハ(Alexander Mach) (1902年~1980年)。フリンカ・スロバキア人民党の超極右。ミュンヘン協定(1938年)以降に台頭し、その後、スロバキアでナショナリズムが高揚したときに、ヴォイテフ(・ペーラ)・トゥカおよびフェルディナンド・デュルチャンスキー(Ferdinand Ďurčanský)と密接に連携した。スロバキア宣伝局長(1938年~1939年)、スロバキア国会議員(1938年~1945年)。準軍事組織フリンカ警護団の重鎮。1939年から1944年まで、同団の総司令官。フリンカ警護団は、ユダヤ人などの「スロバキアの敵」にたいする暴力行為を組織した。内務大臣就任中に(1940年7月以降)、スロバキアにおけるユダヤ人労働収容所の創設を計画するとともに、1942年のユダヤ人強制移送の責任者を務めた。第二次世界大戦後の裁判で禁固30年。

(30) *Slovenská politika*, January 27, 1939, p. 2.

(31) 1940年に西欧でナチス・ドイツが勝利を収めた後、アドルフ・ヒトラーは同年7月に中欧諸国の代表者と会談をもった。これによって、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアの諸国は、中欧を地政学的に支配しているのは誰かを思い知らされることになった。1940年7月28日、ザルツブルクでアドルフ・ヒトラーは、スロバキア大統領ヨゼフ・ティソ、同首相ヴォイテフ・トゥカ、同内務大臣アレクサンデル・マッハと会談した(ドイツ側の同席者は、外務大臣ヨアヒム・フォン・リッペンロップ、特使マンフレート・フライヘル・フォン・キリンガー)。スロバキアとドイツの関係の基本的性質は、1939年3月の「防衛条約」で定められていたために、ヒトラーは、新たな条約を締結することを望まず、スロバキアの政治家にはどう振舞えば良いかを考えられたいと言って理解を求めるだけであった。ナチス・ドイツは、スロバキアの内政に干渉し、スロバキアの政治家が政府内はもとより、フリンカ・スロバキア人民党やフリンカ警護団の中でも、いっそう強力な親独的な政策を推進するよう要求した。こうして、首相のトゥカが新たに外務大臣になり、アレクサンデル・マッハは新しく内務大臣に就任するとともに、返り咲いてフリンカ警護団を束ねることになった。ドイツ側は、大統領のティソが優柔不断であるものの、スロバキアへの自国から

に実施された反ユダヤ政策がこれである。その後、[急進派による] 極端な反ユダヤ政策が始まった、「穏健派」が 1942 年のユダヤ人強制移送にたいして一言述べるとか、抗議するというようなことはなかった。

1939 年に急進派のアレクサンデル・マッハは次のように断言した。

彼ら (たとえばドイツ人 — ニジニャンスキー) は、いたる所で金貨や富を持っているユダヤ人を始末した。だが、我々だって奴らを始末するつもりである。…… 働かざる者、食うべからずである。何かを盗んだ者は、それを取り上げられることになるだろう。ユダヤ人問題を丸ごと解決する現実的なやり方とは、このようなものである。⁽³²⁾

1939 年 2 月、スロバキア国会議員の立場にあったマッハは次のように述べた。

ユダヤ教は国家最大の敵であり、国家の不幸そのものであることを疑う人がいれば、そのような人たちを町や村に送り込み、スロバキアの町や村をスロバキア

らしからぬものに変え、スロバキア人から労働の果実を奪い去り、スロバキア人を国外に追い出したのは誰かを見せてやりたい。……⁽³³⁾

社会経済的な反ユダヤ主義とは、このようなものであった。急進派は、社会にたいする影響を一顧だにすることなく、何が何でもユダヤ人をマジョリティのいる社会から排除しようとしたのである。

ナチス・ドイツがスロバキアの内政に干渉したことによって、1940 年夏には、急進派が権力を掌握した。しかし、「穏健派」は、ユダヤ人問題を「解決」しようとする急進派に反対はしなかった。急進的な反ユダヤ主義の政治は、ユダヤ人企業や営業の清算とアーリア化を進めただけではなかった。各種免許を引き続き交付禁止として、ユダヤ人コミュニティの貧困化を加速させた。このような政治方針は、1942 年のユダヤ人強制移送を組織化したときに頂点に達したのである。

スロバキアが国としてユダヤ人を狙い撃ちしようとするれば、まず「ユダヤ人とは誰か」を定義しなければならない。そうしなければ、ユダヤ人の財産権や専門的職業従事者の活動を制限するための法律を制定することができないからである。

1939 年 4 月 18 日、ティソを首班とするス

の要求を最もよく実行するからとして、ティソのことを、余人をもって替えがたい人物と見ていた。ユダヤ人問題の顧問であるディーター・ヴィスリチュニーをはじめとする複数のドイツ人顧問がスロバキアに赴任したのは、このころである。Nižňanský, Eduard et al. (eds.), *Slowakisch-deutsche Beziehungen 1938–1941 in Dokumenten I. Von München bis zum Krieg gegen die UdSSR*, Prešov: Universum, 2009, pp. 888–900 を参照。

(32) *Slovák*, February 7, 1939, p. 4.

(33) Nižňanský, Eduard and Kamenec, Ivan, (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939–1945). Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 2. President, Government, Parliament SR and State Council about Jewish Question (1939–1945). Documents,] Bratislava: NMŠ, 2003, p. 30.

ロバキア政府は、ユダヤ人の定義と一部の専門的職業に従事するユダヤ人の就業制限にかんする法律を通過させた(1939年法律第63号)。それによれば、「ユダヤ人」は、ユダヤ教を信仰したことのあるすべての者(ただし、1918年10月30日以前にキリスト教徒としての洗礼を受けている者を除く)、信仰告白はしていないが、ユダヤ教徒を両親に持つ者、以上の者を親とする子と定義された。歴史学者イヴァン・カメネツによれば、この定義は、宗教的なもの(信仰告白)を基準にしている⁽³⁴⁾。1939年法律第63号による「ユダヤ人」の定義は、後に1939年4月26日付の司法省ならびに内務省が定めた1939年規則第102号の中で具体的に定められた。ところが、この施行規則によれば、「ユダヤ人」を定義した理由は、スロバキアという国の社会的、経済的、政治的なあり方を再編するためとされた。それだけでなく、民族の伝統に従い民族を存続させるという観点に立って、スロバキアの国民がみずからその存続に不可欠なすべての公的、経済的、文化的地位を継承できるようにしようとしたのである。そのために、「ユダヤ人」は社会的、経済的な言葉として定義され、信仰の有無によって区別しようとする意図はなくなってしまった。立法府は、信仰による定義から一つの民族としての定義のほうへと向おうとしたのである。その一方で、行政府は例外を容認した。ティソを始めとするスロバキアの政治家の考え方の中に、このモデルの前兆を見ることができる。処罰(就

労制限、資格剥奪)を課しながら、他方では、たとえば、これこれの職業は社会が適正に機能する上で必要であるという理由を付けて、気まぐれに選んだ人たちを処罰等から外したのである(たとえば、医師、獣医師、エンジニアなどがそうである)。

スロバキアという国は、ユダヤ人コミュニティの生活の隅々までを規制しようとした。「^バ不可^リ触^ア賤民」としてのユダヤ人は、不満ながらも国家権力が次々と繰り出してくる迫害を、ただ拱手傍観するしかなかった。1939年4月から7月にかけて、いくつかの政令が採択され、ユダヤ人は公的生活から排除されるようになった。また、一部の自由な専門的職業に就くユダヤ人(弁護士、医師、薬剤師、ジャーナリスト、公務員)の人数も規制され、専門的職業ごとのユダヤ人の参入率については、上述したように4%にまで減らす方法(^{ヌメルス・クラウス}人数制限)が採用されることになった。1939年8月下旬になると、「防衛条約」(1939年3月)に基づいてドイツ軍がスロバキアに進駐した⁽³⁵⁾。

1940年7月には、急進派が国内で足場を固めたが、それが触媒効果を發揮して反ユダヤ主義的な政治が行われるようになった。内務省は一連の差別的な法律を公布し、ユダヤ人は、宿泊施設営業免許、電波傍受免許、狩猟免許、漁獲免許、銃の所持免許、パスポート、自動車運転免許、ラジオ・光学機器の所有権が剥奪された。ユダヤ人への迫害は激化の度合いを高め、ユダヤ人に支援の手を差しのば

(34) Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, [On the Trial of Tragedy,] Bratislava, 1991, p. 48.

(35) ドイツ国防軍がスロバキアに進駐したのは、ポーランドとの戦争に備えるためである。

そうとした公務員やスロバキア市民にたいする処罰もいっそう厳しくなった。1940年8月30日以降は、差別的措置の波が押し寄せ、1940年法律第298号に基づいて、ユダヤ人生徒を学校から追放するまでになった。ユダヤ人の市民生活へのこのような介入の仕方は、大統領ティソも承認していた。ユダヤ人にたいする教育制限というテーマで、ティソは次のような極端な民族主義的（おそらくユダヤ恐怖症的）見解を開陳している。

ユダヤ人を学校に入れてはならない。ユダヤ人には教育の機会を与えてはならない。我が国民を守り、二度と再び蹂躪されないようにしたいのであれば、そうしなければならない、と私は言いたい。我が町の住民が、掛け売りをしているユダヤ人の宿屋に行き、手形の裏書きをしてユダヤ人の銀行家に行き、その銀行家から弁護士の所に行き、そして弁護士の所から裁判所に行く、こうして、力づくでもなく盗んだ訳でもなく、ユダヤ人はスロバキア人の財産を掌中に納めている。私はそういうことはあって欲しくないと考えている。スロバキア人を守りたいのなら、このユダヤの連鎖を断ち切らなければならない。ありとあらゆる学問的な知識で武装したユダヤ人が、将来、スロバキア人に襲いかかることができないようにしなければならない。⁽³⁶⁾

(36) *Slovák*, 25. 9. 1940, p. 4. ティソは、ユダヤ人のことを、恥とも思わずスロバキア人から盗みとる泥棒として描きかかった。泥棒のやり方が合法的に見えたのだらう。まず、農民（スロ

バキア人）が宿屋の主人（あるいは商人）（ユダヤ人）に金を借りる、その借金を返済できなくなって、家や畑などを手放す、次に宿屋の主人（ユダヤ人）が弁護士（ユダヤ人）のところに行き、裁判所の力を借りて、法的にきれいな形でスロバキア人から財産を「盗み取る」からである。ティソは、ユダヤ人がスロバキア人から盗めないようにするには、ユダヤ人が中学校やそれ以上の学校で学べなくすることが必要であると主張した。

1940年の秋に、ユダヤ人問題のドイツ人顧問官^{Berater}ディーター・ヴィスリチェニー⁽³⁷⁾が

(37) ディーター・ヴィスリチェニー (Dieter Wisliceny) (1911年～1948年)。1933年にナチス党（国家社会主義ドイツ労働者党）に入党し、1934年に親衛隊に入隊（親衛隊は、アドルフ・ヒトラーおよびナチス党の指揮下にあった準軍事組織であるが、その後ドイツ占領下の全欧州に展開）。1940年に親衛隊大尉に昇進。1939年からアドルフ・アイヒマンの下で国家保安本部（RSHA）IVB 4課〔通称ユダヤ人課〕に勤務。

アドルフ・アイヒマンの推薦により、1940年9月、ドイツ代表団とともに国家保安本部の「アイヒマン課」〔ユダヤ人課〕の代表としてプラチスラバ（スロバキア）に赴き、スロバキア政府で「ユダヤ問題の専門顧問官」として勤務（1940年～1943年）。1940年9月、ヴィスリチェニーはユダヤ人センター（Ústredňa Židov, ドイツ語では Judenrath）の設立を提案し、スロバキアのすべてのユダヤ人にたいしてそこへの登録を義務づけた。さらに、アウグスティン・モラーヴェク（Augustín Morávek）〔スロバキア初代中央経済局長官、脚注40参照〕を補佐して、アリア化の準備・計画立案に当たった。1941年7月、ヴィスリチェニーはスロバキアの政治家代表団を率いてシレジアを訪れ、ユダヤ人労働収容所（絶滅収容所ではない）を現地視察した。この視察によって、スロバキア内務省やフリンカ警護団の代表は、収容所でのユダヤ人の暮らしぶりや重労働に耐えうる期間がどれだけかを把握できた。

1942年には、ヴィスリチェニーは、スロバキア側と共同でユダヤ人の強制移送を組

スロバキアに赴任した。

1940年9月、憲法(1940年法律第210号)が採択され、これにより政府はユダヤ人問題

組織した。ラビのハイム・ミハエル・ドヴ・ヴァイスマンドル師(Rabbi Chaim Michael Dov Weissmandl)によると、アイヒマンの代理としてヴィスリチェニーは、ヴァイスマンドル師および福祉活動家でレジスタンスの活動家でもあったギジ・フライシュマン(Gisi Fleischmann)と交渉して、アウシュヴィッツ強制収容所へのスロバキアのユダヤ人の強制移送を停止させようとした。要求された金額の一部を支払うと、強制移送が停止された。かくて、ヴァイスマンドル師とフライシュマンの二人は、ヴィスリチェニーに賄賂を握らせれば、国外移送を停止できると考えたのであるが、実を言えば、スロバキア当局は、8月から9月までの約6週間、移送列車の手配ができなかっただけである。1本の移送列車に1000人のユダヤ人を乗せなければならないことがネックになったからであった。医師、薬剤師、エンジニア、アーリア化された企業の従業員、キリスト教改宗者など、社会的に必要とされていた[移送免除の]ユダヤ人がいたために、スロバキア当局は1000人のユダヤ人を迅速にはかき集めることができなかった。

1942年の3月から7月にかけて、ユダヤ人5万5000人が強制移送された。1942年9月に2本の移送列車が出発し、1942年10月20日には最後の移送列車が出発した。当時、スロバキア政府は、強制移送が終了したわけではない、ただ中断されただけだと言った。(その後、1944年9月になると、アロイス・ブルナー[脚注72参照]の指揮の下で、新たな移送が遂行された。)

このころヴィスリチェニーはもう一つ別の強制移送計画を策定した。遅くとも1942年8月には、ベルリンにいたアイヒマンから、強制移送したユダヤ人を殺してしまうよう指示があった。前述したように、1942年9月から10月にかけて、最後の3本の強制移送列車がスロバキアを出発した。1942年9月、ヴィスリチェニーは、『国境通信』紙の主筆フリッツ・フィアラ(Fritz Fiala)と一緒に占領下のポーランドに赴き、そこでスロバキアから移送されたユダヤ人数人と面談している。これは、ユダヤ人の殺害がフェイク・ニュースである

を1年で「解決」できるようになった。これは古典的な授權法であった⁽³⁸⁾。このようにして、1940年9月から1941年9月までの1年間は、ユダヤ人問題を「解決」するための政令だけが布告されることになった。その後、政府は1940年法律第222号を採択し、それに基づいて中央経済局を設置し、「具体的な定めに照らして、スロバキアの経済活動からユダヤ人を排除し、ユダヤ人の財産をキリスト教徒の所有へと移管するために必要なことをすべて実行させた。」⁽³⁹⁾アウグスティ

とするドイツ側の主張を証明するためのプロパガンダであった。フィアラは、ポーランド訪問記(フィアラ・レポート)を執筆した。その訪問記は、スロバキアだけでなく、ハンガリー、フランスなどでも出版された。

この強制移送の終了後、ヴィスリチェニーはギリシャに赴任して、1944年にはハンガリーで組織的な強制移送に参加し、顧問官としてスロバキアに戻ることはなかった。ニュルンベルク裁判の重要証人であったヴィスリチェニーはチェコスロバキアに送還され、ブラチスラバで戦争犯罪の罪で裁判にかけられ、1948年、絞首刑に処せられた。Hradská, Katarína, *Prípád Dieter Wisliceny: (Nacistickí poradcovia a židovská otázka na Slovensku)*, [The Case of Wisliceny: Nazi Advisers and the Jewish Question in Slovakia,] Bratislava: AEP, 2001を参照。

(38) 憲法(1940年法律第210号)は1940年9月30日に採択され、「第1条第1項 政府は、a)スロバキアの経済および社会生活からユダヤ人を排除し、b)ユダヤ人の資産をキリスト教徒の財産に移管するために必要とするすべての措置を講ずる権限を有する。第2項 前項に基づく権限は、この法律の施行の日から1年間有効とする。」と規定した。[授權法(Enabling Act, Ermächtigungsgesetz)とは、立法府が行政府(あるいはその他の国家機関)に一定の権限を付与する法律の謂。]

(39) Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, (On the Trial of the Tragedy,) p. 95.

ン・モラーヴェク⁽⁴⁰⁾ が初代長官を務めた中央経済局は、内閣府と歩調を合わせて職務を遂行した。

すべてのユダヤ人団体（ただし、官許ユダヤ人宗教団体を除く。）は 1940 年 9 月をもって解散させられた。ただ一つの公認団体であるユダヤ人センター（スロバキア語では Ústredňa Židov）が国によって設立され、すべてのユダヤ人はそこに登録することが義務づけられた（1940 年法律第 234 号）。ユダヤ人センターの業務を一言で言えば、それは、国の命令をユダヤ人コミュニティに押しつけることであった。

これとは別の、もう一つの反ユダヤ措置は、ユダヤ人家庭が雇用するスロバキア人の家政婦についてであった。内務省は、1939 年法律第 190 号第 2 条第 2 項に基づき、1939 年 9 月 15 日以降、40 歳未満のアーリア人女性の雇用を禁止した。その後、この措置は、それ以外には収入源がない多くのスロバキア人に影響を与えることになった。

1941 年に制定された反ユダヤ措置は、ユダヤ人が所有する不動産にも及び、スロバキアのユダヤ人は、アンドレイ・フリンカやアドルフ・ヒトラーの名が付いた街路や広場に住むことが禁じられた。ただし、これを理由と

する移転は強制されなかった模様である。

1941 年 9 月 9 日、スロバキアでは、1941 年法律第 198 号（ユダヤ人の法的地位にかんするいわゆるユダヤ法）が可決された。275 条に及ぶこの法律は、スロバキア共和国が存続していた全期間に制定された法律の中で最も広範に渡る法律であった。1935 年 9 月 15 日、ナチス・ドイツで施行され、以後ユダヤ人を人種的に差別する反ユダヤ的規制の根拠となったニュルンベルク法と同様に、この法律は人種を基本原則としてユダヤ人を同定した。祖父母 3 人以上の人種がユダヤ人である者はすべてユダヤ人と見なされ、1 人以上の場合には、混血ユダヤ人と見なされた⁽⁴¹⁾。このユダヤ法にたいしては、カトリックの司教たちが反対し、バチカンには外交手段を通じて抗議した⁽⁴²⁾。大統領ティソには、特定の個人にたいする[移送免除などの]除外権限があった⁽⁴³⁾。

1941 年法律第 198 号に基づくユダヤ人マークの強制着用にかんする条項は、標示の仕方を定めた内務省令の布告により、1941 年 9 月 18 日に施行に移された。ユダヤ人には、外衣の左側に目視可能なユダヤ人マークを縫い付けることが義務付けられたのである。このマークは、フェルト、麻などで作られた差し渡し 6³/₁₆ 寸の黄色い星で、幅 5³/₁₆ 寸の水色

(40) アウグスティン・モラーヴェク (Augustín Morávek) (1901 年～1975 年)。スロバキアの政治家で、1940 年から 1942 年まで中央経済局長官を務め（中央経済局はスロバキア語では Ústredný hospodársky úrad）、反ユダヤ的な措置ならびに反ユダヤ義的立法に積極的に加担。中央経済局を通じて、ユダヤ人企業のアーリア化と清算に尽力するも、戦時中、中央経済局の贈賄事件の捜査の渦中に、(おそらく国外に)逃亡し戦後の裁判を免れた。

(41) *Slovak Law Code 1941*, Govt. Reg. 198/1941 Coll を参照。

(42) Kamenec, Ivan, Vilém Prečan and Stanislav Škorvánek, *Vatikán a Slovenská republika (1939–1945), Dokumenty*, [Vatican and Slovak Republic (1939–1945). Documents,] Bratislava: SAP, 1992, pp. 56–66.

(43) 1941 年法律第 198 号第 255 条および第 256 条に基づく裁量。

の布で縁取りされているものとされた。ユダヤ人マークの強制着用を免除された者は、6歳未満の子ども、非ユダヤ人を配偶者とするユダヤ人、国家公務に従事するユダヤ人、有効な雇用許可証を所持するユダヤ人、1941年9月10日以前にキリスト教徒としての洗礼を受けたユダヤ人である⁽⁴⁴⁾。

2. アーリア化 (1940年～1941年)

アーリア化したり清算したりしたユダヤ人企業を「アーリア人」に引き渡すことは、スロバキア共和国の建国当初からの有力政治家たちの約束であった。これが社会経済的反ユダヤ主義に基づくものであることは、すでに述べた。ユダヤ人から事業、不動産、動産を奪取するための国家保証のメカニズムが制度として整えられ、事実上、ユダヤ人の財産権が蚕食^{さんしょく}されることになった。国家がアーリア化を正当化するとき、決まって法律の範囲内で行われた。アーリア化の当事者も法に従った。政権はアーリア化の条件を創出し、その下でのみアーリア化が認容され、アーリア化は、ごくありふれたものと見られ、処罰される危れもなかった。もちろん有力な政治家がその後に控えていた。アーリア化は、大統領にしてカトリックの司祭でもあるティソによってさえも支持されていた。こうして、一切の道徳的原則が打ち捨てられ、アーリア化に加担した国民のマジョリティは次第に深い反道徳的な泥沼に我が身を沈め、誰もがひ

たすら、できる限り「ため込む」ことを追い求めようとした。ユダヤ人財産のアーリア化と清算により、ユダヤ人コミュニティは貧困化し、ユダヤ人はゲットーに集住させられ、ついには強制収容所に移送されることになった。

スロバキア共和国によるユダヤ人財産の侵害は、次のような分野に及んだ。(a)ユダヤ人の農地 (1940年法律第46号、ならびにそれに基づく国土庁令)、(b)ユダヤ人の企業と事業 (1940年法律第113号、1940年政令第303号等)、(c)ユダヤ人の住宅基金 (1941年政令第238号(施行日1941年11月1日)等)、(d)ユダヤ人の銀行口座 (1940年法律第271号、同第272号、1941年第186号、同第199号等)、(e)ユダヤ人の動産 (税務署が強制移送された者の財産を競売に掛けた1942年以降に制定された法律など、財産権を侵害するための多数の法律)。

また、医師、薬剤師、弁護士などの専門的職業従事者の就業についても、厳しい規制の網が掛けられ、ユダヤ人は自力による生計維持を妨げられた。

ユダヤ人企業と営業許可約1万2000件のうち、約2000件がアーリア化され、残りは清算された⁽⁴⁵⁾。スロバキア共和国は、農地、銀行預金、不動産、動産をアーリア化し、様々な方法で売却した。国を挙げて経済的反ユダ

(44) *Úradné noviny*, [Official Newspaper,] 20. 9. 1941, p. 1573.

(45) Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, [On the Trial of Tragedy,] Bratislava, 1991, pp. 111-112; Dreyfus, Jean-Marc, "Jews and non-Jews in the Aryanization Process Comparison of France and the Slovak State, 1939-45," in: *Facing the Catastrophe: Jews and non-Jews in Europe during World War II*, Oxford: Berg, 2011, pp. 13-39.

ヤ主義を手段として、それが制度化されたのであるから、国民の大多数がユダヤ人財産の没収に加担したことは驚くに値しない。

強制移送によって経済や専門的職業の分野から、さらには社会生活からユダヤ人が排除された後、ユダヤ人コミュニティの後釜に座った人々の多くは、どういう人たちであろうか。これは、ホロコーストの社会環境、マジョリティの社会階層、上昇志向、当時進められた財産奪取を理解するための基本問題である。この分析には、アーリア化にたいするマイノリティの視点だけでは足りない。このような強制的な社会変化は、社会のマジョリティの視点からも分析することが重要である。スロバキアからのユダヤ人の強制移送で終わったアーリア化によって、「スロバキア人の中産階級」が形成され、ユダヤ人の財産が「国有化・スロバキア化」された。アーリア化の推進者は、政治的に言えば、主としてフリンカ・スロバキア人民党とその準軍事組織であるフリンカ警護団に属していた。彼らが国内の政治的エリート層と姻戚関係にあったことについては、いくつもの証拠があって、アーリア化の過程は縁故採用や贈収賄と分かちがたい関係にあった。カトリックの司祭が率いるキリスト教国におけるアーリア化は、社会のマジョリティが道徳的に崩壊して行く過程でもあった。

ユダヤ人の企業・営業のアーリア化と清算、ならびにユダヤ人専門的職業従事者の就業禁止は、ユダヤ人が自国と自国民によって貧困化されることを意味した⁽⁴⁶⁾。スロバキアという国の行政府と立法府が実行した反ユダヤ主義の政治によって、1941年秋以降になると、「ユダヤ人問題」は国の隅から隅までを貫

く社会問題になった⁽⁴⁷⁾。それだけでなく、1941年秋にはナチスのホロコースト計画と

(46) Nižňanský, Eduard, "On relations between the Slovak Majority and Jewish Minority during World War II," in: *Yad Vashem Studies*. Vol. 42, No. 2, 2014, pp. 47-89.

(47) この歴史を裏付けるために、1942年4月1日に内務省が作成した説明書から引用することにしよう [以下に番号を付した下線は訳者による]。これによると、①約2万2000世帯8万8951人のユダヤ人（1941年政令第198号によれば8万9053人）のうち、当初の有職者は3万2527人（36.3%）である。4000人のユダヤ人は、雇用されないまま財産を食い潰して生活していた（以上41%）。企業・営業のアーリア化と清算、および就労許可の取消など、様々な反ユダヤの措置によって2万2267人が労働市場から排除され、（上で述べた4000人のうちの）2500人が財産収入による生活の機会を喪失した（2万4767人，71.7%）。上記した内務省の説明書によれば、そのうち、およそ三分の二は世帯主であり、②生計の見通しの立たない世帯は、1万6000世帯（当初の2万2000世帯の72%）に上ると結論している。さらに、同報告書の推定によれば、貧困化したユダヤ人世帯1万6000世帯にたいする支援金が（1世帯1万スロバキア・コルナとして）年間1億6000万スロバキア・コルナとなった。これは、③のべ人数にして約6万4000人になるが、この人数を④強制移送された者の概数5万8000人に⑤ユダヤ人労働収容所とユダヤ人労働センターに収容されたユダヤ人約4500人を加えてみよう [④と⑤の合計は⑥6万2500人]。そうすると、政府は、強制移送によって社会的なユダヤ人問題に上手に処理することができたと結論してもよいであろう。以下を参照。Nižňanský, Eduard and Ivan Kamenec (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a štátna rada o židovskej otázke (1939-1945). Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 2. President, Government, Parliament SR and State Council about Jewish Question (1939-1945). Documents,] Bratislava: NMŠ, 2003, pp. 180-181.

[上記の説明は分かりにくいので、以下では③6万4000人（支援金支給対象予定の世帯人員）が⑥6万2500人（④5万8000人（強制収容所移送人員）+⑤4500人（労働収容所収容人員））にほぼ等しいことを説明する（ただし

交差したために、ドイツと協力してスロバキアからユダヤ人を強制移送するという結果をも、招来させたのである⁽⁴⁸⁾。何はともあれ、ヴァンゼー会議の議定書から判断できるように、ナチス・ドイツはスロバキアで事態が紛糾するとは予想していなかった⁽⁴⁹⁾。事実、

1942年には、ドイツ人顧問官ヴィスリチェニーが「9万人のユダヤ人から財産を奪い取るための唯一の解決策は、強制移送しかない。」⁽⁵⁰⁾と言うとおりになった。

3. 強制移送 (1942年)

手を広げて調べては見たものの、スロバキア側が貧困化したユダヤ人をナチス・ドイツに差出したのが先か、はたまたドイツの要請が先にあつて、スロバキアはそれにたいして迅速かつ積極的に呼応しただけなのかについて、私は決めあぐねている⁽⁵¹⁾。

スロバキアの公文書によると、首相トゥカと内務大臣マツハが、1942年3月3日に開催された政府の会議で強制移送計画を報告している⁽⁵²⁾。

その後、トゥカは1942年3月6日の国務院で強制移送について次のように述べた。

以下では、数字の前の「約」は省略する。

(1) 内務省の調べによれば、1942年4月1日現在の全世帯人員は①8万8951人、全世帯数は②2万2000世帯、よって平均世帯人員は4人(=8万8951÷2万2000)。③生計の見通しが立たなくなった世帯1万6000世帯に、この平均世帯人員を乗ずれば、その総世帯人員は6万4000人を得る。これが④のべ人数にして約6万4000人である。

(2) ④強制移送された者の概数5万8000人に⑤ユダヤ人労働収容所とユダヤ人労働センターに収容されたユダヤ人約4500人を加えるとその合計は⑥6万2500人である。

(3) (1)と(2)により、支援金支給対象予定の世帯人員(③6万4000人)は、強制収容所や労働収容所に収容された人数(⑥6万2500人)とほぼ等しい。

(4) ③生計の見通しが立たなくなった1万6000世帯にたいして、1世帯あたり1万コルナの支援金を支給するとすれば、その総額は1億6000万コルナとなる。ユダヤ人を強制収容所などに収容することによって、スロバキア政府はこの支給金の支出を免れ、しかも「ユダヤ人問題」を切り抜けた。」

(48) Nižňanský, Eduard, "Expropriation and Deportation of Jews in Slovakia," in: *Facing the Nazi Genocide: non-Jews and Jews in Europe*, Berlin: Metropol, 2004, pp. 205-230.

(49) *ADAP Serie E*, Tom 1, p. 272 (Document n. 150; Nižňanský, Eduard, "The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 - the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary," in: *Historický časopis*, 59, suppl. 2011, pp. 111-136. (「1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉 — スロバキア、ルーマニア、ハンガリーを例にして —」(木村和範訳)『学園論集』(北海学園大学)第189・190合併号2023年3月。)[ヴァンゼー会議は、1942年1月20日、ヴァンゼー湖畔(ベルリン郊外)で「ユダヤ人問題の最終解決」(ユダヤ人の完

全殲滅)の方針を定めるために、ラインハルト・ハイドリヒ(国家保安本部)が招集した会議。この議事録(ヴァンゼー議定書)をとりまとめたのがアイヒマン。アイヒマンについては脚注72参照。]

(50) Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, [On the Trial of Tragedy,] p. 141.

(51) Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4, Dokumenty nemeckej proveniencie. 1939-1945*, [Holocaust in Slovakia 4. The Documents of German Origins. 1939-1945,] Bratislava: NMŠ, 2005, pp. 113, 114, 207-212.

(52) Nižňanský, Eduard and Ivan Kamenec, Ivan (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939-1945). Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 2. President, Government, Parliament SR and State Council about Jewish Question (1939-1945). Documents,] Bratislava: NMŠ, 2003, p. 142.

ユダヤ人問題は、ウクライナに再定住させることによって漸次解決されるべき問題である。ユダヤ人には住むべき土地をすでに通告してある。ユダヤ人がわが国の領土を離れれば、スロバキア共和国の国民ではなくなる。彼らには 14 日の間、食料が提供される。スロバキア共和国はユダヤ人一人当たり 500 ライヒスマルクを支払う義務を負う⁽⁵³⁾。

1942 年の強制移送は、スロバキア共和国の反ユダヤ主義的政治のクライマックスを示すというのが、私の考えである。確かに、政府は、強制移送を決定してはいるが、国会、ならびに強制移送法 (1942 年法律第 68 号) に署名した大統領などもそのように決めたのである。

スロバキアの領土から強制移送するときの技術的問題にたいしては、スロバキア共和国当局がじきじきに対処した。1942 年における強制移送は、スロバキア政府 (とくに内務省第 14 局)、運輸公共事業省 (捜査部)、中央経済局、およびフリンカ警護団が組織を挙げで担当した。県レベルでは、県知事、フリンカ・スロバキア人民党県議長、フリンカ警護団県司令官 (場合によってはドイツ党とその [準軍事組織] 義勇親衛隊の代表) がいわゆる三位一体となって、強制移送について協議した⁽⁵⁴⁾。強制移送は、警察のほか、警備を担

当したフリンカ警護団と義勇親衛隊が行った。

1942 年 3 月初め、ブラチスラバ＝パトローンカ、ノヴァーキー、ポブラド、セレッジ、ジリナの 5 ヶ所に収容センターが順次設置され、強制移送される者はそこを通過することになった。フリンカ兵は、収容所の看守として働き、ユダヤ人から略奪を働き、殴り、虐待した。ユダヤ人は厳しく定められた動産 50 觔を携行してよいと言われていた。しかしそれにもかかわらず、自宅から収容センターまでの「国内移送」の間にも、強奪されたり暴行されたりした。

1942 年 3 月 25 日から 10 月 20 日までに、57 本の移送列車がスロバキアを出発し、そのうち 19 本はアウシュビッツに、38 本がルブリン県に向かった。1943 年 1 月 14 日にスロバキア運輸公共事業省が報告したところによれば、この移送列車はユダヤ人 5 万 7752 人を運び、そのうち 3 万 9006 人がルブリン県に、1 万 8746 名がアウシュビッツに移送された⁽⁵⁵⁾。なお、内務省と外務省の公文書によれば、移送されたユダヤ人は 5 万 7628 人である⁽⁵⁶⁾。

の準軍事組織。以下を参照。Nížňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942. Dokumenty*. [Holocaust in Slovakia 6. Deportation in 1942. Documents.] Bratislava: NMŠ, 2005, pp. 143, 146–148.

(55) Nížňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4, Dokumenty nemeckej proveniencie. 1939–1945*, [Holocaust in Slovakia 4. The Documents of German Origins. 1939–1945,] Bratislava: NMŠ, 2005, pp. 487–488, 532–533.

(56) Nížňanský, Eduard and Ivan Kamenec, (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939–1945)*.

(53) Ibid., pp. 146–148.

(54) ドイツ党 (Deutsche Partei) はフランツ・カルマジン (Franz Karvasin) を党首とするカルパチア地方の少数ドイツ人によるナチス政党。義勇親衛隊 (Freiwillige Schutzstaffel: FS) はそ

バチカンの代理大使ジュセッペ・ブルツイオ⁽⁵⁷⁾は、強制移送が始まる前の 1942 年 3 月 9 日、ブラチスラバからバチカンに宛てて次のような書簡を送っている。

ドイツ軍の手中に落ちる [ユダヤ人] 8 万人のポーランドへの強制移送は、彼らの大部分にとって死刑宣告に他なりません⁽⁵⁸⁾。

最後の移送列車がスロバキアを離れる前の 1942 年 8 月、大統領ティソはホリーチ [ブラチスラバの北約 85 ㎞] にある「収穫の家」の祝宴で次のように言い放った。

もう一つ質問してみたいと思います。キリスト教徒にたいして行われていることは、果たして人道的なことなのでしょうか。強盗ではないのでしょうか。あえて質問します。スロバキア国民が永遠の敵ユダヤ人を排除したいと思うことは、本当にキリストの教えに^{かな}適っていることなのでしょうか。自己愛は神の戒律であり、[戒律としての] 自己愛は私に害をな

すもの、私の生命を脅かすものをすべて排除しなさいと、責めるのです。ユダヤ人がスロバキア人の命を脅かす存在であることは、今更言うまでもないことでしょう。…… スロバキア人の皆さん、彼らを追い払いなさい。邪悪な者を追い払うのです。⁽⁵⁹⁾

こうして、フリンカ・スロバキア人民党の急進派と保守派は、驚くほど接近することになった。強制移送を組織した政治責任は、スロバキア政治を仕切った者の側にある。彼らは、戦時中、市民であるユダヤ人を（殺害こそしなかったが）、先の見えない運命へと陥れることに同意し、そのためにユダヤ人は家族ともども身も心も傷つけられ、間違いなくスロバキアにいたときのような良い生活ができなくさせられてしまったからである。

スロバキア共和国は、ナチス・ドイツにたいして強制移送されたユダヤ人一人につき 500 ライヒスマルクを支払うことになった⁽⁶⁰⁾。ドイツ側の覚書には、1942 年 4 月 29 日から 5 月 1 日までに⁽⁶¹⁾ 強制移送されたユダヤ人の経費を [ドイツに] 支払うこと、当該ユダヤ人は市民権を喪失すること⁽⁶²⁾、当該

Dokumenty. [Holocaust in Slovakia 2. President, Government, Parliament SR and State Council about Jewish Question (1939–1945). Documents.] Bratislava: NMŠ, 2003, p. 234–235.

(57) ジュセッペ・ブルツイオ (Giuseppe Burzio) (1901 年～1966 年)。バチカン市国外交官。スロバキア代理大使 (1940 年～1945 年)。

(58) Kamenec, Ivan, Vilém Prečan and Stanislav Škorvánek, *Vatikán a Slovenská republika (1939–1945). Dokumenty*, [Vatican and Slovak Republic (1939–1945). Documents.] Bratislava: SAP, 1992, pp. 79–80 を参照。

(59) *Slovák*, August 18, 1942, p. 4.

(60) Nižňanský, Eduard, “Payment for the Deportations of Jews from Slovakia in 1942,” in: *Discourses-diskurse*, Praha, 2008, pp. 317–331.

(61) Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4, Dokumenty nemeckej proveniencie. 1939–1945*, [Holocaust in Slovakia 4. The Documents of German Origins. 1939–1945.] Bratislava: NMŠ, 2005, pp. 135–138.

(62) 1942 年 5 月 15 日、憲法 (1942 年法律第 68 号) 施行。これがいわゆる強制移送法であり、こ

ユダヤ人にはスロバキアの土を二度と踏ませないとドイツが確約すること、これらが記載されている。

ドイツ大使ハンス・ルディン⁽⁶³⁾は、すでに1942年4月にベルリンに次のような書簡を送っている。

スロバキア政府は、ドイツ側が何の圧力も掛けなかったにもかかわらず、すべてのユダヤ人をスロバキアから移送することに同意した。スロバキア司教座の介入にもかかわらず、大統領みずから移送に同意した。⁽⁶⁴⁾

誰が強制移送の停止対象を選定したかということについては、文献上では様々な憶測や議論があってもかまびすしいが、[移送されずに]残されたユダヤ人コミュニティを社会的に分析してみると、[移送の適用]除外となったユダヤ人の大半が、必要不可欠な専門的職業従事者（たとえば医師、獣医師、エンジニアなど）であるか、もしくはアーリア化された企業の新しいオーナーが会社の経営に関心がないか、経営の能力がないために、「経済活

動に従事するユダヤ人」として雇われていることが分かる。ユダヤ人労働収容所（ノヴァーキー、セレジ、ヴェーネ）に送られて、国家のために働かされたユダヤ人もいる⁽⁶⁵⁾。1942年の強制移送後に「移送されずに」スロバキアに残留したユダヤ人は、2万人である。

4. 「平和な時代」（1943年～1944年）

1943年2月、内務大臣兼フリンカ警護団総司令官のアレクサンデル・マッハは、ルジヨムベロクで開かれたフリンカ警護団の地方会議で、「3月が過ぎ4月になれば、移送列車が発発することになるだろう。」と言い切った⁽⁶⁶⁾。

しかし、1943年になって、スロバキアはユダヤ人の強制移送を再開しようとしたが、とうとう実施されることはなかった。1943年2月にスターリングラードでドイツ国防軍が敗北を喫し、1943年5月には北アフリカでナチス・ドイツとファシスト・イタリアが敗退した後の試みだったからである。戦線の状況は、徐々に反ヒトラー連合（アメリカ、イギ

れによりユダヤ人の強制移送が可能となるとともに、市民権の剥奪も可能となった。

(63) ハンス・エルルト・ルディン (Hanns Elard Ludin) (1905年～1947年)。ドイツの外交官、プラチスラバ駐在ドイツ大使 (1941年～1945年)。第二次世界大戦後、国民法廷で有罪判決後処刑 (1947年)。

(64) Nižňanský, Eduard, (ed.), *Holokaust na Slovensku 4, Dokumenty nemeckej proveniencie. 1939–1945*, [Holocaust in Slovakia 4. The Documents of German Origins. 1939–1945,] Bratislava: NMŠ, 2005, pp. 127–128.

(65) 以下を参照。Baka, Igor, *Židovský tábor v Novákoch 1941–1944*, [The Jewish Camp in Novák 1941–1944,] Bratislava, 2001; Hlavinka, Ján and Eduard Nižňanský, *Pracovný a koncentračný tábor v Sereďi 1941–1945*, [The Labour and Concentration Camp in Sereď 1941–1945,] Bratislava, 2009; Nižňanský, Eduard, “Die Aktion Nisko, das Lager Sosnowiec (Oberschlesien) und die Anfänge des ‘Judenlagers’ in Vyhne (Slowakei),” in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung* 11, Berlin: Metropol, 2002, pp. 325–335.

(66) *Gardista*, 9. 2. 1942. [大量強制移送の再開は、スロバキア国民蜂起後である (1945年秋)。脚注 68 参照。]

リス、ソ連)にとって有利な方向へ向かい始めた。

1944年4月から5月にかけて、4人のユダヤ人がアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所から脱走して、スロバキアにたどり着いた。アルフレッド・ヴェツラー(1918年～1988年)とルドルフ・ヴルバ(1924年～2006年)、そしてアルノシュト・ロジン(1913年～2000年)とチェスワフ・モルドヴィッツ(1919年～2001年)である。彼らが逃亡したのは、自分たちの命を救おうとしたためだけでない。何よりも重要であったのは、強制収容所で大がかりに繰り広げられている事柄(有り体に言えば殺人工場)の生き証人となろうとしたことである。彼らの証言は、始まったばかりのハンガリーからの強制移送を阻止するはずであった⁽⁶⁷⁾。

5. スロバキア国民蜂起とユダヤ人(1944年)

1944年の秋になると、状況が一変した。8月29日にスロバキア国民蜂起⁽⁶⁸⁾が勃発し、蜂起軍は、ドイツの武装親衛隊、国防軍、特別分遣隊H部隊(親衛隊大将ゴットローブ・ベルガー⁽⁶⁹⁾麾下)と対峙した。9月1日の会議には、将軍ベルガー、ドイツ大使ルディンなどの大使館員、その他ドイツ高官が出席して、「ユダヤ人問題」の抜本的解決法を決定した。特別分遣隊H部隊(指揮官はヨゼフ・ヴィティスカ⁽⁷⁰⁾)は、フリンカ警護団が警備する収容所にユダヤ人を収監した。こうして、ユダヤ人と「反逆者」の運命は「重なり合い」、しばしば両者の運命は似通うことになった。

ヴィティスカの特別分遣隊H部隊が残し

(67) Kamenec, Ivan, “The Escape of Rudolf Vrba and Alfréd Wetzler from Auschwitz and the Fate of Their Report,” in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová, and Fedor Blaščák (ed.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide (Proceedings from the Conference Žilina, Slovakia, 25–26 August 2015)*, pp. 7–17 (「ルドルフ・ヴルバとアルフレッド・ヴェツラーのアウシュヴィッツからの脱走とその報告文書の運命」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学経済学部)第70巻第2号, 2022年9月); Nižňanský, Eduard, “The History of the Escape of Arnošt Rosin and Czesław Mordowicz from the Auschwitz-Birkenau Concentration Camp to Slovakia in 1944,” *op. cit.*, pp. 18–38. (「1944年にアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所からスロバキアへ脱走したアルノシュト・ロジンとチェスワフ・モルドヴィッツの歴史」(木村和範訳) 掲掲『経済論集』第70巻第2号所収。)

(68) スロバキア国民蜂起(スロバキア語では Slovenské národné povstanie)。反ファシストによる政治的・軍事的蜂起(1944年8月29日～10月26日)。ヨゼフ・ティソ政権と対立するスロバキアの政治家(共産主義者と民主主義者)が蜂起を準備し、反ヒトラー連合への加盟を宣言した。軍事行動は、パルチザンと連携したスロバキアの国軍が行った。蜂起はスロバキア中央部に集中したが、蜂起軍はナチス・ドイツによって鎮圧された。

(69) ゴットローブ・クリスティアン・ベルガー(Gottlob Christian Berger) (1896年～1975年)。ナチス・ドイツ軍の高官。親衛隊大将、武装親衛隊大将、第2次世界大戦中は親衛隊本部で隊員募集責任者。

(70) ヨゼフ・ヴィティスカ(Josef Witiska) (1894年～1945年)。1944年9月以降、ドイツ親衛隊スロバキア分遣隊H部隊(ナチス・ドイツの殺人部隊)の司令官、親衛隊大佐。[スロバキアのユダヤ人の逮捕、アウシュヴィッツ、ザクセンハウゼン、テレジエンシュタットへの強制移送を担当。]

た1944年12月9日付の活動報告によれば、逮捕者は1万8937人に及び、そのうちユダヤ人は9653人、パルチザンは3409人である（その他5875人は脱走兵など）。ユダヤ人約8975人と「その他」530人がドイツの強制収容所に移送された。逮捕者のうち2257人が殺害された（ドイツ語で言う「特別措置」(Sonderbehandlung)を受けた）。集団墓地には、ユダヤ人、スロバキア人、ロマ、国軍兵士、パルチザン、「賊軍」、一般市民と一緒に埋葬されている。歴史学者スタニスラフ・ミチェフによれば、スロバキアには集団墓地が211ヶ所あって、5306人の犠牲者が埋葬されている⁽⁷¹⁾。

1944年9月末になると、アドルフ・アイヒマンの信頼する部下の一人、親衛隊大尉アロイス・ブルンナー⁽⁷²⁾がスロバキアに赴任し

て、セレジ収容所で指揮を執るかたわら、改めてユダヤ人を強制移送するための組織を作り直した。最新の調査によると、ユダヤ人1万1719人がセレジから11本の移送列車で強制移送された（行き先は、アウシュヴィッツ、ベルゲン＝ベルゼン、オラニエンブルク、ラーベンスブリュック、マウトハウゼン、テレジエンシュタット）。

教皇大使ジュゼッペ・ブルツィオは、1944年10月26日付の電報で、ユダヤ人の悲劇的な状況について次のように述べている。

占領前にユダヤ人を救済しようとしたが、果せませんでした。強制移送が続き、隠れているユダヤ人の搜索も続いています。占領されたせいで、独立国スロバキアにはその残滓^{ざんし}すら残っていません。[スロバキア]政府と[スロバキア]

(71) Mičev, Stanislav, “Generous Souls’ Destiny,” in: *Park Generous Souls 4*, Bratislava: IOK, 2009, p. 96-8

(72) アロイス・ブルンナー (Alois Brunner) (1912年～?)。1939年、アドルフ・アイヒマン (Adolf Eichmann) (1906年～1962年) が勤務しているユダヤ人移民ウィーン中央事務所 (Zentralstelle für jüdische Auswanderung) に就職。アイヒマンの右腕。ウィーン、ベルリン、テッサロニキ、パリ、スロバキア、ハンガリーで強制移送を企画立案。戦後、シリアに逃亡。死亡年は不明だが、2014年12月にサイモン・ヴィーゼンタール・センターが死亡を確認。Hans Safrian, *Eichmann’s Men*, Cambridge: Cambridge University Press und United States Holocaust Memorial Museum, 2010, pp. 14-45 を参照。

以下では、ブルンナーの上司であったアドルフ・アイヒマンの略歴について述べる。オーストリア生まれのドイツ人アイヒマンは、親衛隊の高官であり、ホロコースト（ナチスのいわゆる「ユダヤ人問題の最終解決」）を推進した大幹部の一人である。1934年、親衛隊保安

局 (Sicherheitsdienst : SD) に採用された後、第2部第112課 [ユダヤ人課] に配属。1938年8月、ウィーンに派遣され、ユダヤ人移民ウィーン中央事務所勤務。オーストリアからの強制移住を企画立案し、1938年8月から1939年5月までに、ユダヤ人約9万人を強制移送して、華々しい手柄を挙げた。1939年9月、国家保安本部 (RSHA) に異動して、ヨーロッパにおけるユダヤ人の強制移送を組織する IVB 4 課 [ゲシュタポのユダヤ人課] の課長に就任。早くもこの年には、ニスコ [ワルシャワの南南東約 230^{キロ}、ルブリンの南南西約 100^{キロ}、クラクフの東約 100^{キロ}にある通過収容所] へのユダヤ人の強制移送を組織した。その後、IVB 4 課の課員と謀って、スロバキア、フランス、西ヨーロッパ、ギリシャ、イタリア、ハンガリーからアウシュヴィッツ、トレブリンカ、ソビボルなどの強制収容所への移送を企画立案した。戦後、潜伏していたが、アルゼンチンでモサド [イスラエルの情報機関] の工作員に拉致され、1961年にイスラエルで裁判にかけられた後、処刑。

共和国大統領は、占領軍の行政機関が発出する命令を唯々諾々と実行しています。善良なるカトリック教徒は大統領の態度に狼狽し、大統領は何を待っているのか、どうして辞職しないのか言っています。⁽⁷³⁾

ブルツィオのコメントは、ティソの個人的な失敗だけでなく、政治の失敗をも言い当てている。上で引用した1942年3月9日付の電報の中で、ブルツィオは、ティソが「迫害された人々にたいして理解も共感もすることなく、ユダヤ人を諸悪の根源と見なしています。」と早い段階でコメントしている。イタリアとスロバキアとでは二人のカトリック司祭が、ユダヤ人の悲劇をまったく異なったふうに判断していたことは、明らかである。

スロバキアにおける反ユダヤ主義政策、強制移送、ホロコーストは、スロバキアのユダヤ人コミュニティにとどめを刺した。第二次世界大戦後、生き残ったユダヤ人の多くはスロバキアから（たとえば、イスラエルへと）移住したのである。

6. ホロコースト研究の意義

—結びにかえて—

モニュメント、胸像、街路の名称といった

国家や民族のシンボルを熱心に追い求めようとする傾向は、19世紀や20世紀などのイデオロギーの時代だけでなく、（聖俗それぞれのモニュメントが作られた）それ以前の時代にも見られ、それらは今も我々の目の前にある。どこの国でも、修史と政治もしくは国民の記憶が互いに影響を与えあっているからである。このような影響は、現代史の解釈だけに留まらず、様々な事柄でも見られる。

ことスロバキアにかんして言えば、1989年の共産主義の崩壊は、反ユダヤ主義とホロコーストの解釈だけでなく、反ユダヤ主義とホロコーストにたいする歴史学による認識、さらには反ユダヤ主義・ホロコーストと政治の実相との関係についての解釈とも分かちがたくリンクしている。共産主義の崩壊までは、ホロコーストというテーマは、歴史学界でも社会（学校教育）でも、さほど重視はされていなかった。1970年代初頭にイヴァン・カメネツが、ホロコーストにかんする博士論文を著し、その後のスロバキアにおける研究に決定的な影響を与えたが⁽⁷⁴⁾、それが単行本として出版されたのは、1991年のことであ

(73) Kamenec, Ivan, Vilém Prečan and Stanislav Škorvánek, *Vatikán a Slovenská republika (1939–1945), Dokumenty*, [Vatican and Slovak Republic (1939–1945). Documents,] Bratislava: SAP, 1992, pp. 202–203. [教皇大使 (Apostolic Delegate) は、バチカンの教皇庁と公式の外交関係がない国に派遣される代表の謂。]

(74) Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, [On the Trial of Tragedy,] Bratislava: Archa, 1991. 以下を参照。Paulovičová, Nina, “Pokus o komparáciu monografie Ivana Kamenca ‘Po stopách tragédie’ s niektorými významnými dielami o holokauste v zahraničí,” [“An Attempt to compare Ivan Kamenec’s Monograph ‘On the Trial of Tragedy’ with some important Works on the Holocaust abroad,”] in: Ivaničková, Edita et al., *Z dejín demokratických a totalitných režimov na Slovensku a v Československu v 20. storočí*, [From the History of Democratic and Totalitarian Regimes in Slovakia and Czechoslovakia in the 20th Century,] Bratislava: HÚ SAV, 2008, pp. 18–29.

る。その後、スロバキアにおけるホロコースト関連文献の分析によって史実が明らかになった。（史実の解明には、しばしば（教育分野を含む）政治的目的の達成が意図されていた。これが明らかになったことは、何よりも重要である。）30年に亘って研究が積み上げられた結果、スロバキアにおけるホロコーストの基本的な事実関係は、国の内外の歴史学の中で、もはや動かしようのない事実として確定・再現され、時と所、そしてテーマに焦点が絞込まれて、いっそうの精緻化が図られつつある⁽⁷⁵⁾。

チェコスロバキアにおける共産主義の崩壊

は、新しい政治体制の形成と議会制民主主義の誕生を意味するだけではなかった。ちょっとした思想的な真空地帯が作り出され、その空白は、次第にナショナリズムやキリスト教の思想によって埋められていった⁽⁷⁶⁾。スロバキア共和国の分離独立（1993年）が、それに拍車をかけた。戦間期でさえも、スロバキアには基本的にリベラルの伝統がなかったからであるが、戦時中のスロバキア共和国時代（1939年～1945年）においては、カトリック教会の政治力がすこぶる強固であったことにもよる⁽⁷⁷⁾。

(75) スロバキアのホロコースト史については、以下を参照。Kamenec, Ivan, “Phenomenon of the Holocaust in Historiography, Art and the Consciousness of Slovak Society,” in: Vrzgulova, Monika and Daniela Richterová (eds.), *Holocaust as a Historical and Moral Problem of the Past and the Present*, Bratislava: DSH, 2008, pp. 331-339; Nižňanský, Eduard, “Der Holocaust in der Slowakei in der slowakischen Historiographie der neunziger Jahre,” in: *Bohemia*, Vol. 44, 2003, pp. 370-388; Paulovicova, Nina, “The Unmasterable Past? Slovaks und the Holocaust: The Reception of the Holocaust in Post-communist Slovakia,” in: Himka, John-Paul and Joanna Michlic (eds.), *Bringing the Dark Past to Light. The Reception of the Holocaust in Post-Communist Europa*, Lincoln/London: University of Nebraska Press, 2013, pp. 549-590; Paulovicova, Nina, “Mapping the Historiography of the Holocaust in Slovakia in the Past Decade (2008-2018). Focus on the Analytical Category of Victims,” *Judaica et Holocaustica*, Vol. 10/1, 2019, pp. 46-71; Sniegón, Tomas, *Vanished History. The Holocaust in Czech and Slovak Historical Culture*, Berghahn Books, 2017; Szabó, Miloslav, “Zwischen Geschichtswissenschaft und Wissenschaft. Der Holocaust in der slowakischen Historiographie nach 1999,” in: *Einsicht*, Vol. 11, 2014, pp. 16-23.

(76) Byrnes, Timothy, *Transnational Catholicism in Postcommunist Europe*, Landham, Boulder, New York and Oxford: Rowman and Littlefield Publishers, 2001; Ramet, Pedro, “Christianity and National Heritage among the Czechs and Slovaks,” in: Ramet, Pedro (ed.), *Religion and Nationalism in East European Politics*, Durham/London: Duke University Press, 1989, pp. 264-285; Drelková, Agáta Šústová, “Čo znamená národ pre katolíkov na Slovensku?” [“What does the Nation mean to Catholics in Slovakia?”] *Historický časopis*, Vol. 67, 2019, pp. 385-412.

(77) カトリック教会をめぐる問題はまったく解決されない現実の問題となっている。いまだにスロバキアのカトリック教会は、司教ヤン・ヴォイタシュヤーク（Ján Vojtaššák）（1877年～1965年）の列福を実現しようとしている。この司教は、第二次世界大戦後（とくに1948年に）、カトリック教会への干渉を拒むために共産主義政権と闘ったことは確かである。しかし、スロバキア国家のもとで、国務院（事実上の議会上院）副議長という政治的立場にいて、反ユダヤの発言をしたほかに、アリア化を推進したり、そのために労働収容所に収容されることになったユダヤ人を公然と非難したりしたことでも知られているにもかかわらず、である。ヴォイタシュヤークを列福しようとする試みが現在進行形であることから、スロバキアでは歴史と現実の政治がいまだに密接に結びついていることが分かる。1939年から1945年まで存続したスロバキア

1993年1月1日にスロバキア共和国が成立すると、[戦時中の]スロバキア共和国(1939年～1945年)の復興と大統領ヨゼフ・ティソの名誉回復を画策する動きが見られるようになり、ホロコーストによるユダヤ人の犠牲者数も疑問視されるようになった。移民先から帰国してきたフランティšek・ヴヌク(František Vnuk)やミラン・スタニスラフ・デュリカ(Milan Stanislav Ďurica)のような歴史学者は、歴史修正主義の観点から国の公式の政策の中にそのような「見直しの」原則を取り込もうとした。このために、ブリュッセルに本部を置く欧州委員会(EC)が介入して、修正主義的歴史観で執筆されている教科書は学校では使用禁止になった⁽⁷⁸⁾。

だが、政治と歴史学の分野におけるナショ

ナリストと聖職者による反対運動は、いまだになくなってはいない。かつて、イデオロギーの空白を埋めたカトリック教会は、戦時中の事柄についてはまだ明確な声明を出しておらず、カトリック司祭ヨゼフ・ティソの政治活動を非難することなく、いまだに国にたいして強い大きな影響力を及ぼしている。したがって、スロバキア共和国が、ファシスト分子による一党独裁の(たとえば人種差別法制を敷く)国であった歴史をはっきりさせることは、きわめて枢要である。

今日、スロバキア共和国では、あのユダヤ法(1941年)が制定された9月9日が記念日になっているが、反ユダヤ主義の政治とホロコーストそのものを思い出させることも、劣らず重要である。

共和国にかんする歴史解釈をめぐる激しい論争が続いている。たとえば、ヴァリーナ村議会による街路の命名(「ヨゼフ・ティソ通り」)、1939年から1940年まで外務大臣と内務大臣の地位にあったフェルディナンド・デュルチャンスキー(Ferdinand Ďurčanský)(1906年～1974年)[フリンカ・スロバキア人民党の政治家]の生まれ故郷であるラジェツク町での胸像設置などについて、議論が起こったのである。

(78) デュリカは、副読本として反ユダヤ主義的な著書 *Dejiny Slovenska a Slovákov*, [The History of Slovakia and Slovaks,] Bratislava: Slovenské pedagogické nakladateľstvo, 1995 を著した。Vnuk, František, *Mať svoj štát znamená život*, [Having own State Means Life,] Bratislava, 1991 も参照。

付録 アウロコースト略年表 (スロバキア関係分)

- 1918 年 10 月 第 1 次世界大戦終結、オーストリア＝ハンガリー帝国崩壊 (27 日)。
チェコスロバキア共和国 (第 1 共和国) 独立宣言 (29 日)。
- 1929 年 10 月 世界恐慌勃発。
- 1938 年 9 月 ミュンヘン協定 (ナチス・ドイツ (ヒトラー)、ファシスト・イタリア (ムッソリーニ)、イギリス (チェンバレン)、フランス (ダラディエ) の合意) によりチェコスロバキアはズデーテン地方を失う (30 日)。
- 10 月 フリンカ・スロバキア人民党によるスロバキア自治宣言 (6 日)。ヨゼフ・ティソを首班とする自治政府樹立 (ミュンヘン協定以降、民主主義が弱体化したチェコスロバキア政府はこれを認容)。スロバキア自治政府時代 (～1939 年 3 月 14 日)。
- 11 月 第一次ウィーン裁定、ナチス・ドイツとファシスト・イタリアにより、スロバキアは南部をハンガリーに割譲 (2 日)。
- 1939 年 1 月 スロバキア自治政府、ユダヤ人問題解決委員会を設置 (23 日)。
- 3 月 スロバキア建国 (同年 7 月以降の正式名称はスロバキア共和国) (14 日) (チェコスロバキア第 2 共和国)。
ナチス・ドイツ、チェコをボヘミア・モラヴィア保護領とする (15 日)。
ドイツと防衛条約締結、これによりスロバキアはナチス・ドイツの衛星国となる (23 日)。
- 4 月 1939 年法律 63 号制定、「ユダヤ人」を「信仰告白」にもとづく民族的な概念として定義 (18 日)。
- 8 月 ドイツ軍、スロバキアへ増派 (1939 年 3 月にドイツ軍は進駐していたが、ポーランド危機を口実として)。
- 9 月 ドイツ国防軍とスロバキア軍、ポーランドへ侵攻、第二次世界大戦勃発 (1 日)。
- 1940 年 2 月 1940 年法律第 46 号制定 (土地改革法)、これによりユダヤ人の土地がアーリア化。
- 4 月 1940 年法律第 113 号制定 (第一次アーリア化法)。この法律により、ユダヤ人が経営する商店や事業所 (従業員 50 人以下) の設立が認められる。元オーナー (ユダヤ人) とアーリア化による事業主 (スロバキア人) との間で何らかの合意に至ることも認められていたので、元オーナーのユダヤ人は事業の一部を継続することも可能。ただし、この法律の効力は数ヶ月間だけで、1940 年 9 月、アーリア化を管理する中央経済局が設立され、同年 11 月に 1940 年法律第 303 号 (第二次アーリア化法) が発効すると失効し、全ユダヤ人の財産を例外なく没収することが可能になった。
- 7 月 ヨゼフ・ティソ、ヒトラーと会見 (ザルツブルク会談)、ドイツ人顧問官の増員、

以後、ナチスの影響強化。反ユダヤ的規制の強化、ユダヤ人の修学権抑制。

- 9 月 ユダヤ人問題ドイツ顧問官ディーター・ヴィスリチュニー赴任。

憲法（1940年法律第210号）制定、1年間でのユダヤ人問題の「解決」を政府に委任、以後反ユダヤ法令が政令で布告。

1940年法律第222号制定（アーリア化のために中央経済局設置）。

1940年政令第234号（ユダヤ人諸団体解散、ユダヤ人センターの設置、スロバキアに居住するすべてのユダヤ人に同センターへの登録義務）。

ユダヤ人にたいする公教育の修学権制限。

- 11 月 1940年法律303号（第二次アーリア化法）により、あらゆる種類のユダヤ人企業
のアーリア化と清算。

- 1941年9月 1941年法律第198号（ユダヤ法）、ナチス・ドイツと同様のユダヤ人定義。従前の
反ユダヤ法制を統合した全275条に及ぶ包括的な法律。これによりユダヤ人は
「ユダヤの星」と呼ばれるユダヤ人マークの着用が義務化。大統領ヨゼフ・ティソ
は、キリスト教に改宗したユダヤ人をユダヤ法の適用除外にできる（9日）。
ノヴァーキー、セレッジ、ヴェーネにユダヤ人労働収容所設置。

- 12 月 第三帝国の領土（ボヘミア・モラヴィア保護領と旧オーストリア〔オストマルク〕
を含む）に居住するスロバキアのユダヤ人の強制移送にかんするドイツとスロバ
キアの協議。

- 1942年3月 首相トゥカと内務大臣マッハが政府内会議で、スロバキアからのユダヤ人の強制
移送にかんするナチス・ドイツとの合意を報告（3日）。

ブラチスラバ＝パトローンカ、ノヴァーキー、ポブラド、セレッジ、ジリナに収
容センター（通過収容所）設置。

スロバキアのユダヤ人の強制移送（～10月）。移送されたユダヤ人は5万7752人
（ポーランド総督府ルブリン県へ3万9006人、アウシュヴィッツへ1万8746人）。

- 5 月 憲法（1942年法律第68号）採択、これによりユダヤ人の強制移送が可能となる。
この法律により強制移送されたユダヤ人は、スロバキア国籍と財産を喪失。ただ
し、社会的に必要なユダヤ人（医師、技術者、アーリア化された企業で働くユダ
ヤ人など「経済活動に従事するユダヤ人」）は強制移送の免除可能。

- 1943年2月 ドイツ軍、スターリングラードで降伏。

- 5 月 独伊軍、北アフリカから敗退。

- 1944年6月 連合軍、ノルマンジー上陸（Dデイ）（6日）。

- 8 月 スロバキア国民蜂起（～10月）、蜂起を主導したスロバキア国民評議会は解放さ
れた全地域で反ユダヤ的な法律とそれによる規制を撤廃するも、ナチス・ドイツ
により鎮圧（特別分遣隊によれば、逮捕1万8937人、うち殺害〔「特別措置」〕

2257 人）。

9 月 ナチス・ドイツ（アロイス・ブルンナー）によるユダヤ人 1 万 1719 人の第二次強制移送始まる。

1945 年 スロバキア国家代表部（首班ヨゼフ・ティソ），終戦までナチス・ドイツの同盟国に留まる。

ブラチスラバ解放（4 月），ボヘミア解放（5 月），チェコスロバキア共和国再建（第 3 共和国）。

文献目録

- Actes and Documents du Saint Siège relatifs à la Seconde Guerre Mondiale*, ed. by P. Blet, R. A. Graham, A. Martini, B. Schneider, I–XI, Cita del Vaticano, 1970–1981.
- Akten zur deutschen auswärtigen Politik (DAP), Serie E, Tom 1.
- Baka, Igor, *Židovský tábor v Novákoch 1941–1944*, [The Jewish Camp in Novák 1941–1944,] Bratislava, 2001.
- Brandmüller, Walter, *Holocaust in der Slowakei und die katholische Kirche*, Neustadt an der Aisch: Ph. C. W. Schmidt, 2003.
- Büchler, R. Y., “Jewish Community in Slovakia before the World War II,” in: *Tragedy of the Slovak Jewry*, Banská Bystrica: Múzeum SNP, 1992, pp. 5–26.
- Czech, Danuta, *Kalendarium der Ereignisse im Konzentrationslager Auschwitz-Birkenau 1939–1945*, Reinbek bei Hamburg: Rowohlt Verl., 1989.
- Dreyfus, Jean-Marc, “Jews and non-Jews in the Aryanization Process Comparison of France and the Slovak State, 1939–45,” in: *Facing the Catastrophe: Jews and non-Jews in Europe during World War II*, Oxford: Berg, 2011, pp. 13–39.
- Fabricius, Miroslav and Ladislav Suško (eds.), *Jozef Tiso: Prejavy a články 1913–1938*, [Jozef Tiso: Speeches and Articles 1913–1938,] Bratislava: Historický ústav SAV, 2002.
- Fabricius, Miroslav and Katarína Hradská (eds.), *Jozef Tiso: Prejavy a články 1939–1944*, [Jozef Tiso: Speeches and Articles 1939–1944,] Bratislava: Historický ústav SAV, 2007.
- Gaško, Mikuláš, *Nad úkrytom*, [Above the Shelter,] Bratislava: SAK, 2014.
- Hlavinka, Ján, Ivan Kamenec and Martin Clifford, *The Burden of the Past. Catholic Bishop Ján Vojtaššák and the Regime in Slovakia (1918–1945)*, Bratislava: Dokumentačné stredisko holokaustu, 2014.
- Hlavinka, Ján and Eduard Nižňanský, *Pracovný a koncentračný tábor v Seredi 1941–1945*, [The Labor and Concentration Camp in Sereď 1941–1945,] Bratislava, 2009.
- Hausleitner, Mariana, Souzana Hazan und Barbara Hutzelmann (Hg.), *Die Verfolgung und Ermordung der europäischen Juden durch das nationalsozialistische Deutschland 1933–1945, Band 13 Slowakei, Rumänien und Bulgarien*, Berlin/Boston: Walter de Gruyter GmbH, 2018.
- Hilberg, Raul, *Perpetrators, Victims, Bystanders: The Jewish Catastrophe, 1933–1945*, New York: Harper Collins, 1992.
- Hilberg, Raul, *The Destruction of the European Jewry*, 3rd Edition, New Haven: Yale University Press, 2003. (望田幸男・原田一美・井上茂子訳『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』(全2巻) 柏書房, 1997年)
- Hoensch, J. K., *Der ungarische Revisionismus und die Zerschlagung der Tschechoslowakei*, Tübingen,

1967.

Hradská, Katarína, “The Status of Jews in Slovakia under the 1st Czechoslovak Republic,” in: *Emancipation of Jews - Anti-Semitism - Persecution in Germany, Austria-Hungary, in Czech Countries and in Slovakia*, Bratislava 1999, pp. 131–38.

Hradská, Katarína, *Gizi Fleischmannová. Návrat nežiadúci*, [Gizi Fleischmann. Undesirable Return,] Bratislava 2012.

Hradská, Katarína (ed.), *Holokaust na Slovensku 3. Listy Gisely Fleischmannovej (1942–1944). Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 3. Letters of Gisi Fleischmann. Documents,] Bratislava: NMS, 2003.

Hradská, Katarína, *Holokaust na Slovensku 8. Ústredňa Židov. Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 8. Jewish Centre,] Bratislava: DSH, 2009.

Hradská, Katarína, *Prípady Wisliceny. (Nacistickí poradcovia a židovská otázka na Slovensku)*, [The Case of Wisliceny. (Nazi Advisers and the Jewish Question in Slovakia),] Bratislava: AEPRESS, 2001.

Kamenec, Ivan, *Po stopách tragédie*, (On the Trial of Tragedy,) Bratislava: Archa, 1991.

Kamenec, Ivan, *Jozef Tiso: Tragédia politika, kňaza a človeka*, [Jozef Tiso: The Tragedy of a Politician, Priest and Man,] Bratislava: Premedia, 2013.

Kamenec, Ivan, Vilém Prečan and Stanislav Škorvánek, *Vatikán a Slovenská republika (1939–1945). Dokumenty*, [Vatican and Slovak Republic (1939–1945). Documents,] Bratislava: SAP, 1992.

Kamenec, Ivan, “The Escape of Rudolf Vrba and Alfréd Wetzler from Auschwitz and the Fate of Their Report,” in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová and Fedor Blaščák (eds.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and their Efforts to Inform the World on Genocide - Odhaľovanie Šoa: odpor a úsilie Židov informovať svet o genocíde*, Bratislava: HÚ SAV, 2016, pp. 101–112. (「ルドルフ・ヴルバとアルフレッド・ヴェツラーのアウシュビッツからの脱走とその報告文書の運命」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学経済学部) 第 70 巻第 2 号, 2022 年 9 月。)

Kárný, Miroslav, “Historie osvětimské zprávy Wetzlera a Vrba,” [History of the Auschwitz Report by Wetzler and Vrba,] in: Tóth, Dezider (ed.), *Tragédia slovenských Židov*, [The Tragedy of Slovak Jews,] Banská Bystrica: Datei, 1992, pp. 167–186.

Lipscher, Ladislav, *Die Juden im Slowakischen Staat: 1939–1945*, München: Oldenbourg, 1980.

Mičev, Stanislav, “Generous Souls’ Destiny,” in: *Park Generous Souls 4*, Bratislava: IOK, 2009.

Neumann, Oskar, *Im Schatten des Todes*, Tel Aviv: Olamenu, 1956.

Neštáková, Denisa and Eduard Nižňanský, “Swedish Interventions in the Tragedy of the Jews of Slovakia,” in: *Nordisk Judaistik*, Vol. 27, No. 2 2016, pp. 22–39.

Neštáková, Denisa and Eduard Nižňanský, “Regulating of Sexual Relations between Jews and non-Jews by Ordinance Number 198/1941 Coll. of Slovak Laws in Times of the Slovak State,” in: *Women and World War II. Judaica et Holocaustica 7*, Bratislava: STIMUL, 2016, pp. 89–118.

- Nižňanský, Eduard, *Politika antisemitizmu a holokaust na Slovensku 1938–1945*, [Politics of Anti-Semitism and the Holocaust in Slovakia 1938–1945,] Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2016.
- Nižňanský, Eduard, *Obraz nepriateľa v propagande počas II. svetovej vojny na Slovensku*, [The Image of the Enemy in Propaganda during World War II in Slovakia,] Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2016.
- Nižňanský, Eduard, *Židovská komunita na Slovensku medzi československou parlamentnou demokraciou a slovenským štátom v stredoeurópskom kontexte*, [The Jewish Community in Slovakia between the Czechoslovak Parliamentary Democracy and the Slovak States in the Central European Context,] Prešov: Universum, 1999.
- Nižňanský, Eduard, “Der Holocaust in der Slowakei in der slowakischen Historiographie der neunziger Jahre,” *Bohemia*, Vol. 44, 2003, pp. 370–388.
- Nižňanský, Eduard, “Die Vorstellungen Jozef Tisos über Religion, Volk und Staat und ihre Folgen für seine Politik während des Zweiten Weltkriegs,” in: Kaiserová, Kristina *et al.* (eds.), *Religion und Nation: Tschenen, Deutsche und Slowaken im 20. Jahrhundert*, Essen: Klartext Verl., 2015, pp. 39–83.
- Nižňanský, Eduard, “Anti-Semitic Policies of Jozef Tiso during the War and before the National Court,” in: Mičev, Stanislav *et al.* (eds.), *Policy of Anti-Semitism and Holocaust in Post-War Retribution Trials in European States*, Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2019, pp. 113–148.
- Nižňanský, Eduard, “Antisemitická propaganda počas deportácií Židov v roku 1942,” [Anti-Semitic Propaganda during the Deportation of Jews 1942,] in: Nižňanský, Eduard, Michala Lônčíková *et al.* (eds.), *Antisemitizmus a propaganda*, [Anti-Semitism and Propaganda,] *Judaica et Holocaustica* 5, 2014, pp. 125–159.
- Nižňanský, Eduard, “Die Machtübernahme von Hlinkas Slowakischer Volkspartei in der Slowakei im Jahre 1938/39 mit einem Vergleich zur nationalsozialistischen Machtergreifung 1933/34 in Deutschland,” in: Glettler, Monika *et al.* (eds.), *Geteilt, besetzt, beherrscht*, Essen: Klartext Verl., 2004, pp. 249–287.
- Nižňanský, Eduard, “Expropriation and Deportation of Jews in Slovakia,” in: *Facing the Nazi Genocide: non-Jews and Jews in Europe*, Berlin: Metropol, 2004, pp. 205–230.
- Nižňanský, Eduard, “On Relations between the Slovak Majority and Jewish Minority during World War II,” in: *Yad Vashem Studies*, Vol. 42, No. 2, 2014, pp. 47–89.
- Nižňanský, Eduard, “Die ‘Arisierung’ jüdischen Vermögens in der Slowakischen Republik,” in: *Eigentumsregime und Eigentumskonflikte im 20. Jahrhundert: Deutschland und die Tschechoslowakei im internationalen Kontext*, Essen: Klartext Verl., 2018, pp. 373–412.
- Nižňanský, Eduard, “Die jüdische Gemeinde in der Slowakei 1938/39,” in: *Jahrbuch 2000*, Wien: DÖW, 2000, pp. 116–133.
- Nižňanský, Eduard, “Die Deportation der Juden in der Zeit der autonomen Slowakei im November 1938,” in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung* 7, Frankfurt/Main: Campus, 1998, pp. 20–45.

- Nižňanský, Eduard, “Die Aktion Nisko, das Lager Sosnowiec (Oberschlesien) und die Anfänge des ‘Judenlagers’ in Vyhne (Slowakei),” in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung* 11, Berlin: Metropol, 2002, pp. 325–335.
- Nižňanský, Eduard, “Payment for the Deportations of Jews from Slovakia in 1942,” in: *Discourses-diskurse*, Praha, 2008, pp. 317–331.
- Nižňanský, Eduard, “The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 - the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary,” in: *Historický časopis*, [Historical Journal,] 59, suppl. 2011, pp. 111–136. (「1942 年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉 — スロバキア, ルーマニア, ハンガリーを例にして —」(木村和範訳)『学園論集』(北海学園大学) 第 189・190 合併号 2023 年 3 月。)
- Nižňanský, Eduard, “Slovaks and Jews - Relation of the Slovak Majority and the Jewish Minority during World War II,” in: *Park of Generous Souls*, Bratislava: IOK, 2007, pp. 72–111.
- Nižňanský, Eduard, et al. (eds.), *Slowakisch-deutsche Beziehungen 1938–1941 in Dokumenten I. Von München bis zum Krieg gegen die UdSSR*, Prešov: Universum, 2009,
- Nižňanský, Eduard, “Der Holocaust und die Slowakei,” in: Weiss, Lotte, *Meine zwei Leben*, Berlin: LIT, 2010, pp. 173–194.
- Nižňanský, Eduard, “The History of the Escape of Arnošt Rosin and Czesław Mordowicz from the Auschwitz-Birkenau Concentration Camp to Slovakia in 1944,” in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová and Fedor Blaščák (eds.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and their Efforts to Inform the World on Genocide - Odhaľovanie Šoa: odpor a úsilie Židov informovať svet o genocíde*, Bratislava: HÚ SAV, 2016, pp. 113–134. (「1944 年にアウシュビツ＝ビルケナウ強制収容所からスロバキアへ脱走したアルノシュト・ロジンとチェスワフ・モルドヴィツの歴史」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学経済学部) 第 70 巻第 2 号, 2022 年 9 月。)
- Nižňanský, Eduard and Ivan Kamenec (eds.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939–1945). Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 2. President, Government, Parliament SR and State Council about Jewish Question (1939–1945). Documents,] Bratislava: NMŠ, 2003.
- Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 4, Dokumenty nemeckej proveniencie. 1939–1945*, [Holocaust in Slovakia 4. The Documents of German Origins. 1939–1945,] Bratislava: NMŠ, 2005.
- Nižňanský, Eduard (ed.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942. Dokumenty*, [Holocaust in Slovakia 6. Deportation in 1942. Documents,] Bratislava: NMŠ, 2005.
- Paulovicova, Nina, “The Unmasterable Past? Slovaks and the Holocaust: The Reception of the Holocaust in Post-communist Slovakia,” in: John-Paul Himka and Joanna Michlic (eds.), *Bringing the Dark Past to Light. The Reception of the Holocaust in Post-Communist Europe*, Lincoln/London: University of

- Nebraska Press, 2013, pp. 549–590.
- Paulovicova, Nina, “Mapping the Historiography of the Holocaust in Slovakia in the Past Decade (2008–2018). Focus on the Analytical Category of Victims,” *Judaica et Holocaustica*, Vol. 10, No 1, 2019, pp. 46–71.
- Rothkirchen, Livia, “The Situation of Jews in Slovakia between 1939 and 1945,” in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Vol. 7, 1998, pp. 46–71.
- Salner, Peter, *Prežili holokaust*, [They survived the Holocaust,] Bratislava: Veda, 1997.
- Sobanski, Tomasz, *Úteky z Osvienčimu*, [Escapes from Auschwitz,] Bratislava: Pravda, 1982.
- Snopko, Ladislav and Miloš Žiak, “Hepler, Rescuer,” in: *Park of Generous Souls 2*, Bratislava: IOK, 2008, pp. 12–31.
- Szabó, Miloslav, “‘Clerical Fascism’? Catholicism and the Far-Right in the Central European Context (1918–1945),” *Historický časopis*, 66, 2018, pp. 885–900.
- Szabó, Miloslav, “Zwischen Geschichtswissenschaft und Wissenschaft. Der Holocaust in der slowakischen Historiographie nach 1999,” in: *Einsicht*, Vol. 11, 2014, pp. 16–23.
- Szenes, Sándor and Frank Baron, *Von Ungarn nach Auschwitz. Die verschwiegene Warnung*, Münster: Westfälisches Dampfboot, 1994.
- Štefánek, Anton, *Základy sociografie Slovenska*, [Foundations of the Sociography of Slovakia,] Bratislava 1944.
- Vrba, Rudolf, *I Cannot Forgive*, Vancouver, 1997.
- Ward, James Mace, *Priest, Politician, Collaborator: Jozef Tiso and the Making of Fascist Slovakia*, Ithaca and London: Cornell University Press, 2013.
- Wetzler, Alfréd [as Lánik, Jozef], *Čo Dante nevidel*, [What Dante did not See,] Bratislava, 1964.